

日本病院会「看護職場環境委員会」

平成27年度

「看護業務の役割分担に関する実態調査」

結果報告書（抜粋版）



一般社団法人 **日本病院会**
Japan Hospital Association

目 次

【はじめに】	2
【調査の概要】	3
I. 施設概要	
1. 開設者別	4
2. 病床規模別（許可病床数）	5
3. 療養病床の有無（許可病床数）	5
4. 地域別	6
5. 病院種別	6
6. 「一般病棟」入院基本料区分	7
▪ 急性期看護補助体制加算算定の有無	7
▪ 夜間急性期看護補助体制加算算定の有無	7
▪ 看護職員夜間配置加算算定の有無	8
7. 「療養病棟」入院基本料区分	8
8. 院内システムの導入状況	8
9. 医師事務作業補助体制加算	9
10. 看護部門職員数	9
II. 看護業務の役割分担について	
1. 外来における役割分担	10
2. 内視鏡室における役割分担	14
3. 透析室における役割分担	17
4. 病棟における役割分担	20
5. 手術室における役割分担	30
【その他－自由記入欄より（一部抜粋）】	35
【参考資料・本調査票】	39
【担当委員会】	42

【はじめに】

平成 27 年 6 月の「特定行為に係る看護師の研修制度」法制化により、看護職への業務拡大がますます期待される一方、看護業務の職域が広範囲のため、多職種連携によるチーム医療の推進が求められることとなりました。当委員会では、いままで看護師が行っていた業務のなかで、どの業務を他職種に委譲できるか、看護師の負担軽減につなげることができるか、各医療機関の現在と 5 年前を比べ、専門職が働く部門ごと（外来・病棟・手術室・透析室・内視鏡室）に役割分担の状況変化と今後業務を担当してほしい職種を把握するため、アンケート調査を実施いたしました。

具体的には平成 27 年各医療機関の現在（平成 27 年度）と 5 年前（平成 23 年度）を比べ、専門職が働く部門ごと（外来・病棟・手術室・透析室・内視鏡室）に、看護業務に関する役割分担の状況変化を把握するとともに、職場環境改善に向けた対策の検討を行いました。

調査対象日病加盟全病院 2,418 施設に対し、回収数 947 件（回収率 39.2%）と多くの回答をいただき、「報告書」をまとめることができました。現場にある諸問題の対策を政策的な視点から議論し、看護職の離職防止、人材育成等の一助としたいと思います。アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

今後は、職場環境改善に向けた対策の検討、提言等に役立てるとともに、各医療機関における看護業務の役割分担に関するご検討等にお役立ていただければ幸いです。

一般社団法人 日本病院会

看護職場環境委員会 委員長 望月 泉

【調査の概要】

◆調査目的

各医療機関の現在（平成27年度）と5年前（平成23年度）を比べ、専門職が働く部門ごと（外来・病棟・手術室・透析室・内視鏡室）に、看護業務に関する役割分担の状況変化を把握するとともに、職場環境改善に向けた対策の検討を行い、提言等に役立てる。

◆調査内容

I. 施設概要

1. 開設者別
2. 病床規模別（許可病床数）
3. 療養病床の有無（許可病床数）
4. 地域別
5. 病院種別（一般病院、ケアミックス病院、療養型病院、精神科病院）
6. 「一般病棟」入院基本料区分
 - ・急性期看護補助体制加算算定の有無
 - ・夜間急性期看護補助体制加算算定の有無
 - ・看護職員夜間配置加算算定の有無
7. 「療養病棟」入院基本料区分
8. 院内システムの導入状況（電子カルテシステム・オーダーリングシステム）
9. 医師事務作業補助体制加算
10. 看護部門職員数

II. 看護業務の役割分担について

1. 外来における役割分担
 - ・病状・手術・検査説明の同席
 - ・採血
 - ・検査説明
 - ・片付け・清掃・廃棄物の処理
2. 内視鏡室における役割分担
 - ・光源・スコープ準備、点検
 - ・内視鏡処置・治療介助
 - ・スコープ洗浄
3. 透析室における役割分担
 - ・穿刺・回収
 - ・機器点検・管理
 - ・後片付け・清掃・ゴミ捨て
4. 病棟における役割分担
 - ・環境整備（病室）
 - ・ベッドメイキング
 - ・清潔ケア（清拭、洗髪、入浴介助、口腔ケア等）
 - ・排泄ケア（トイレ誘導、おむつ交換を含む）
 - ・入院時の対応（オリエンテーション）
 - ・診療機器・器具の点検、管理
 - ・採血
 - ・注射薬の準備・混注
 - ・持参薬チェック
 - ・認知症患者、不穏が見られる患者等の見守り
5. 手術室における役割分担
 - ・手術部屋準備
 - ・手術器械展開

- ・ 外廻り（間接介助）
- ・ 器械出し（直接介助）
- ・ 術後清掃

6. 自由意見

◆調査対象施設

一般社団法人日本病院会加盟する全ての会員 2,418 施設（平成 27 年 6 月現在）の医療機関を対象に実施

◆調査期間

平成 27 年 6 月 2 日～8 月 3 日（※6 月 20 日の回答期限を延長）

◆調査方法

調査票（PDF）を E-mail 一括送信（一部 FAX 送信有）。回答は、メール添付又は FAX 送信のいずれかにより行う。他、調査用サイト（URL）に調査票等を掲載し、回答者へ周知する。

◆調査回収数

947 施設（回答率；39.2%）

◆調査結果

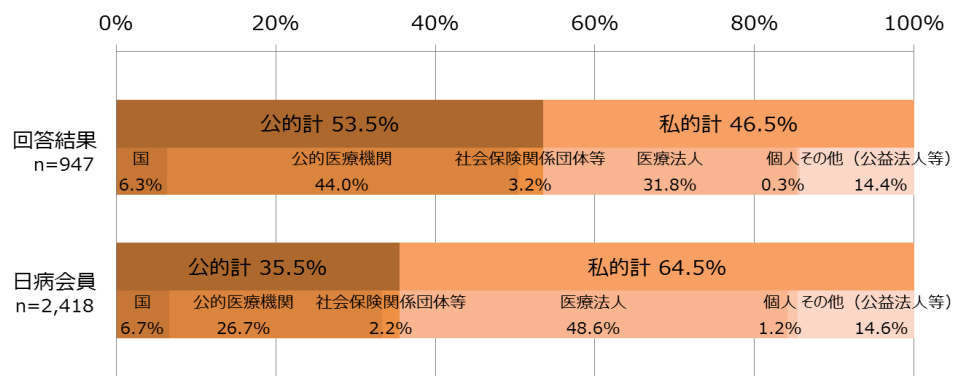
調査結果を以下に示す。

I. 回答病院施設の概要

1. 開設者別

公的・私的それぞれの医療機関の回答結果から全体の病院数とその割合をみると、公的医療機関の方が若干多い割合であった。

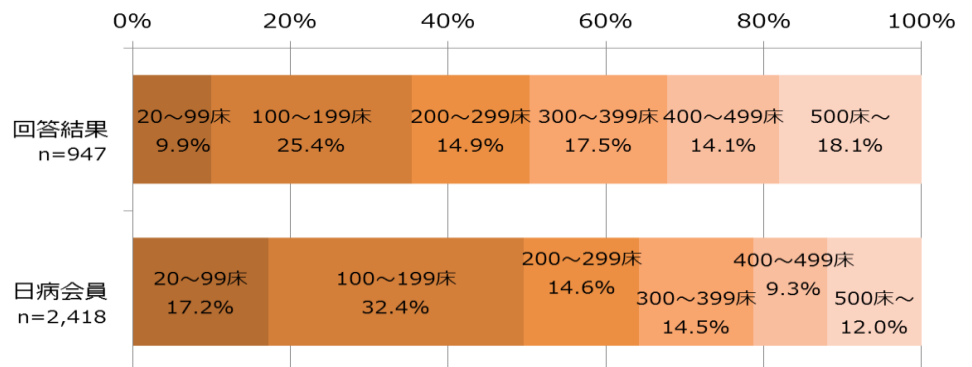
	回答結果		日病会員	
	病院数	割合	病院数	割合
公的計	507	53.5%	859	35.5%
国	60	6.3%	161	6.7%
公的医療機関	417	44.0%	645	26.7%
社会保険関係団体等	30	3.2%	53	2.2%
私的計	440	46.5%	1,559	64.5%
医療法人	301	31.8%	1,175	48.6%
個人	3	0.3%	30	1.2%
その他（公益法人等）	136	14.4%	354	14.6%
合計	947	100.0%	2,418	100.0%



2. 病床規模別（許可病床数）

日本病院会会員の割合より、比較的規模の大きい病院からの回答が多くみられた。

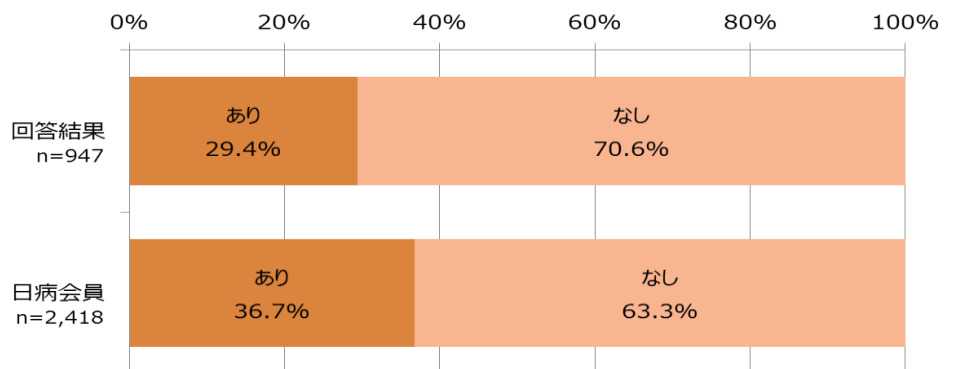
	回答結果		日病会員	
	病院数	割合	病院数	割合
20～99床	94	9.9%	416	17.2%
100～199床	241	25.4%	783	32.4%
200～299床	141	14.9%	353	14.6%
300～399床	166	17.5%	351	14.5%
400～499床	134	14.1%	226	9.3%
500床～	171	18.1%	289	12.0%
合計	947	100.0%	2,418	100.0%



3. 療養病床の有無（許可病床数）

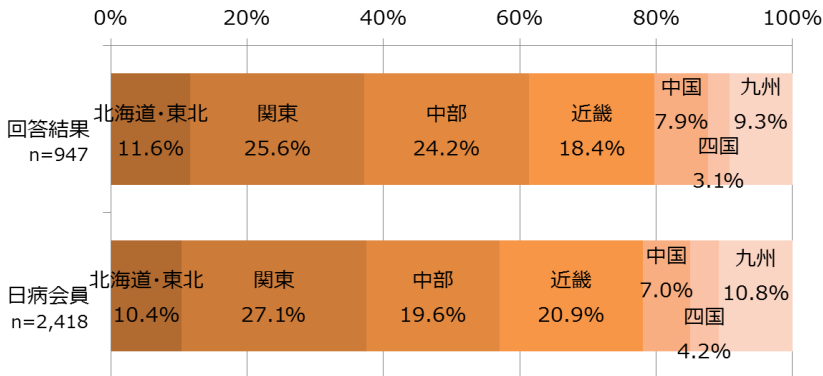
回答結果の割合と日本病院会会員の割合は、ほぼ同じであった。

	回答結果		日病会員	
	病院数	割合	病院数	割合
あり	278	29.4%	888	36.7%
なし	669	70.6%	1,530	63.3%
合計	947	100.0%	2,418	100.0%



4. 地域別

日本病院会会員の地域別割合にほぼ一致していた。



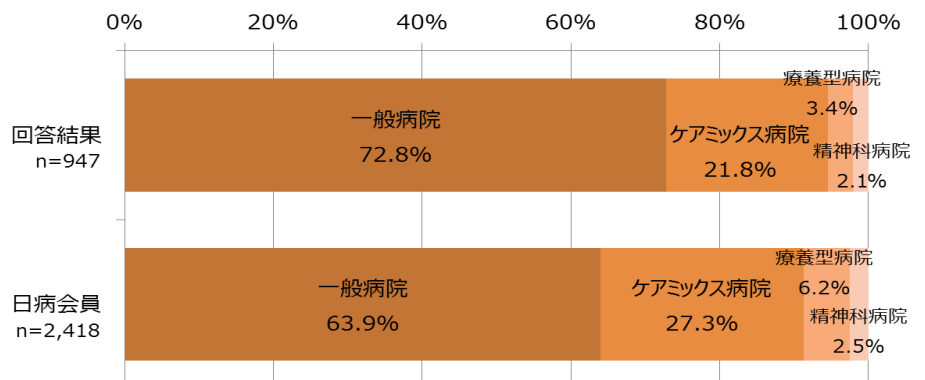
	回答結果		日病会員	
	病院数	割合	病院数	割合
北海道・東北	110	11.6%	251	10.4%
関東	242	25.6%	655	27.1%
中部	229	24.2%	474	19.6%
近畿	174	18.4%	506	20.9%
中国	75	7.9%	169	7.0%
四国	29	3.1%	102	4.2%
九州	88	9.3%	261	10.8%
合計	947	100.0%	2,418	100.0%

- 北海道・東北: 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 中部: 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 近畿: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 四国: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

5. 病院種別（一般病院、ケアミックス病院、療養型病院、精神科病院）

回答結果では、一般病院が 72.8%と高い割合を示し、次に、ケアミックス病院が 21.8%であった。日本病院会会員割合ともほぼ同じ割合であった。

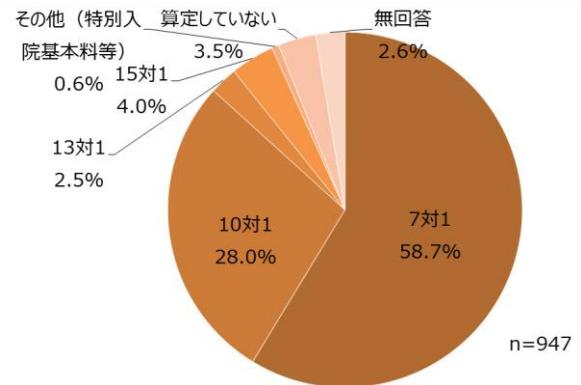
	回答結果		日病会員	
	病院数	割合	病院数	割合
一般病院	689	72.8%	1,546	63.9%
ケアミックス病院	206	21.8%	660	27.3%
療養型病院	32	3.4%	151	6.2%
精神科病院	20	2.1%	61	2.5%
合計	947	100.0%	2,418	100.0%



6. 「一般病棟」入院基本料区分

回答病院の大半は、「7 対 1」（58.7%）、「10 対 1」（28.0%）であった。

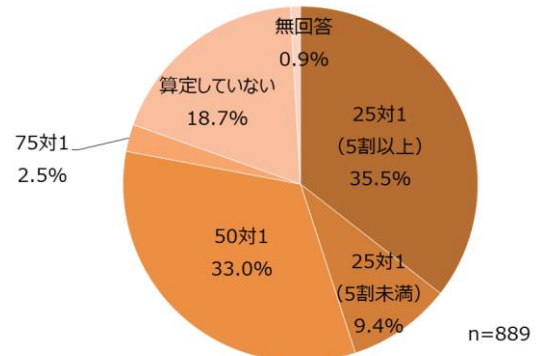
	病院数	割合
7対1	556	58.7%
10対1	265	28.0%
13対1	24	2.5%
15対1	38	4.0%
その他（特別入院基本料等）	6	0.6%
算定していない	33	3.5%
無回答	25	2.6%
合計	947	100.0%



・急性期看護補助体制加算算定の有無

急性期看護補助体制加算は、25 対 1（5 割以上）が 35.5%、50 対 1 が 33.0%とほぼ同じ割合であった。

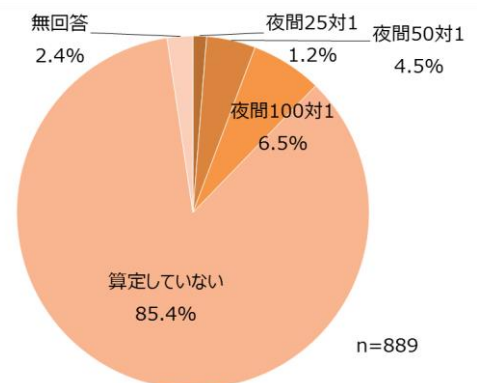
	病院数	割合
25対1（5割以上）	316	35.5%
25対1（5割未満）	84	9.4%
50対1	293	33.0%
75対1	22	2.5%
算定していない	166	18.7%
無回答	8	0.9%
合計	889	100.0%



・夜間急性期看護補助体制加算算定の有無

夜間急性期看護補助体制加算は、算定していない病院が 85.4%と大半を占めた。

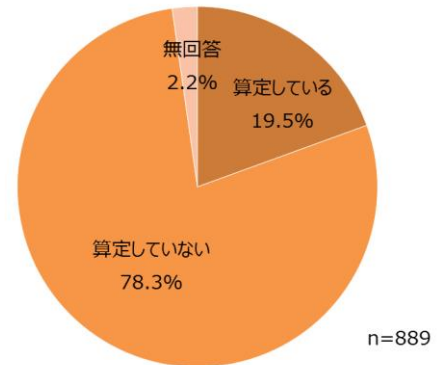
	病院数	割合
夜間25対1	11	1.2%
夜間50対1	40	4.5%
夜間100対1	58	6.5%
算定していない	759	85.4%
無回答	21	2.4%
合計	889	100.0%



・看護職員夜間配置加算算定の有無

回答結果は、算定していない病院が8割近く（78.3%）と、夜間急性期看護補助体制加算と同じ傾向がみられた。

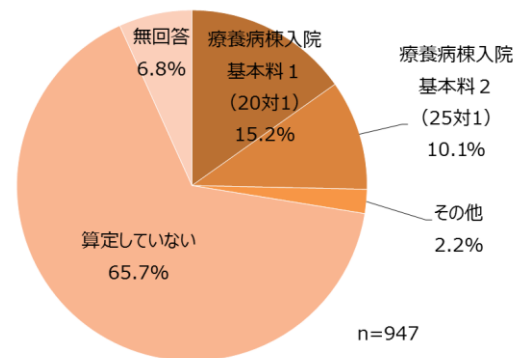
	病院数	割合
算定している	173	19.5%
算定していない	696	78.3%
無回答	20	2.2%
合計	889	100.0%



7. 「療養病棟」入院基本料区分

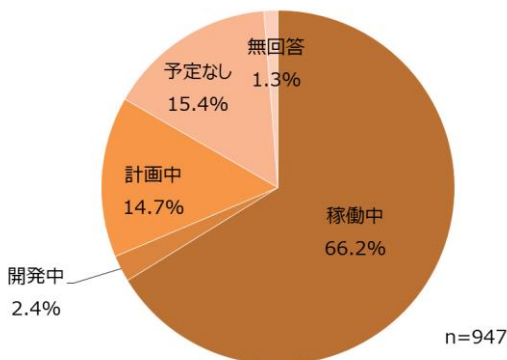
「療養病棟」入院基本料区分は、算定していない回答病院数が半数以上（65.7%）を占めた。

	病院数	割合
療養病棟入院基本料1（20対1）	144	15.2%
療養病棟入院基本料2（25対1）	96	10.1%
その他	21	2.2%
算定していない	622	65.7%
無回答	64	6.8%
合計	947	100.0%

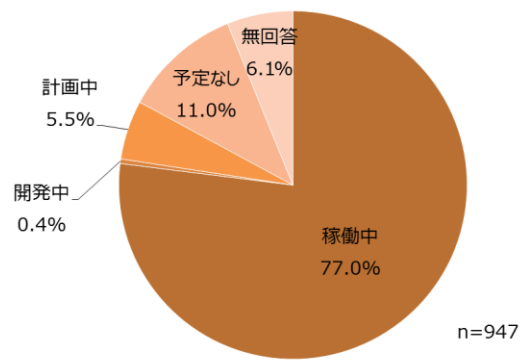


8. 院内システムの導入状況（電子カルテシステム・オーダーリングシステム）

院内システムの稼働状況は、電子カルテシステム（66.2%）、オーダーリングシステム（77.0%）であった。



<電子カルテシステム>

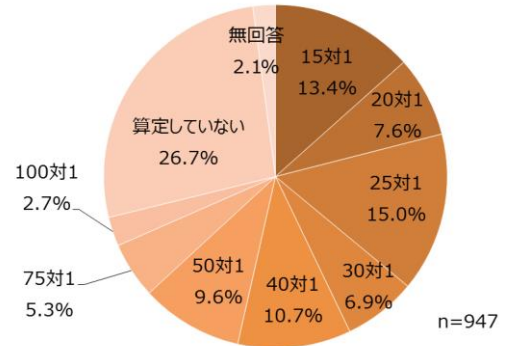


<オーダーリングシステム>

9. 医師事務作業補助体制加算

回答病院では、25対1が15.0%、15対1が13.4%、40対1が10.7%であった。

	病院数	割合
15対1	127	13.4%
20対1	72	7.6%
25対1	142	15.0%
30対1	65	6.9%
40対1	101	10.7%
50対1	91	9.6%
75対1	50	5.3%
100対1	26	2.7%
算定していない	253	26.7%
無回答	20	2.1%
合計	947	100.0%



10. 看護部門職員数

・100床あたり看護部門職員数

職員数の100床あたり平均値を病床規模別にみると、看護師、助産師数は、規模の大きい病院ほど高くなり、逆に准看護師数は、規模の小さい病院の方が高い数字となった。

全体_平均値	n=947				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	245.5	9.1	10.8	26.2	289.7
非常勤(常勤換算)	16.0	2.8	0.6	13.5	32.7
合計	259.7	11.8	11.3	39.5	322.4
100床あたり	70.4	5.0	2.8	13.3	91.5
20~99床_平均値	n=94				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	33.3	6.7	0.2	11.3	51.5
非常勤(常勤換算)	4.0	1.4	0.0	1.8	7.2
合計	37.2	8.1	0.3	13.1	58.6
100床あたり	50.9	10.9	0.4	16.7	78.9
100~199床_平均値	n=241				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	84.9	9.1	2.8	21.2	117.0
非常勤(常勤換算)	9.0	2.2	0.3	5.8	17.1
合計	93.3	11.2	3.0	26.7	134.1
100床あたり	58.3	7.4	2.1	17.2	85.1
200~299床_平均値	n=141				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	150.2	10.1	4.7	24.4	189.4
非常勤(常勤換算)	13.6	3.0	0.5	9.2	26.3
合計	163.8	13.1	5.3	33.6	215.7
100床あたり	66.9	5.4	2.1	13.7	88.0

300~399床_平均値	n=166				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	240.2	9.9	8.8	24.0	282.8
非常勤(常勤換算)	16.7	3.2	0.8	15.9	36.5
合計	256.9	13.0	9.6	39.8	319.3
100床あたり	75.6	3.8	2.8	11.7	94.0
400~499床_平均値	n=134				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	316.1	9.4	16.1	27.9	364.7
非常勤(常勤換算)	21.8	3.2	1.0	20.4	46.2
合計	333.2	12.6	16.8	48.3	410.9
100床あたり	75.9	2.9	3.8	11.0	93.6
500床~_平均値	n=171				
	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者	合計
常勤	567.5	8.4	28.1	41.0	640.3
非常勤(常勤換算)	26.4	3.1	1.1	23.8	53.9
合計	589.5	11.5	28.8	64.5	694.2
100床あたり	87.7	1.8	4.3	9.8	103.6

II. 看護業務の役割分担について

医療機関が行う業務(1. 外来、2. 内視鏡室、3. 透析室、4. 病棟、5. 手術室)の役割分担について、「5年前(平成22年度)業務を行っていた職種」、「現在(平成27年6月)業務を行う職種」、「今後、業務を担当してほしい職種」と、全25職種(※下記枠内)からそれぞれ3職種まで選択可能とした。回答者は看護部長(看護師長含む)とし、結果、947施設より回答を得る。全般にわたり「今後、業務を担当してほしい職種」への無回答が多くみられたが、これは「現在、業務を行う職種」と「今後、業務を担当してほしい職種」が同じ職種であり、敢えて回答されなかったためと推察される。数ある業務の中から挙げられた各業務(外来~手術室)は、今後、看護職員以外が担当可能と考えられる必要最小限の業務に止め、項目立てを行った。

※<全25職種>

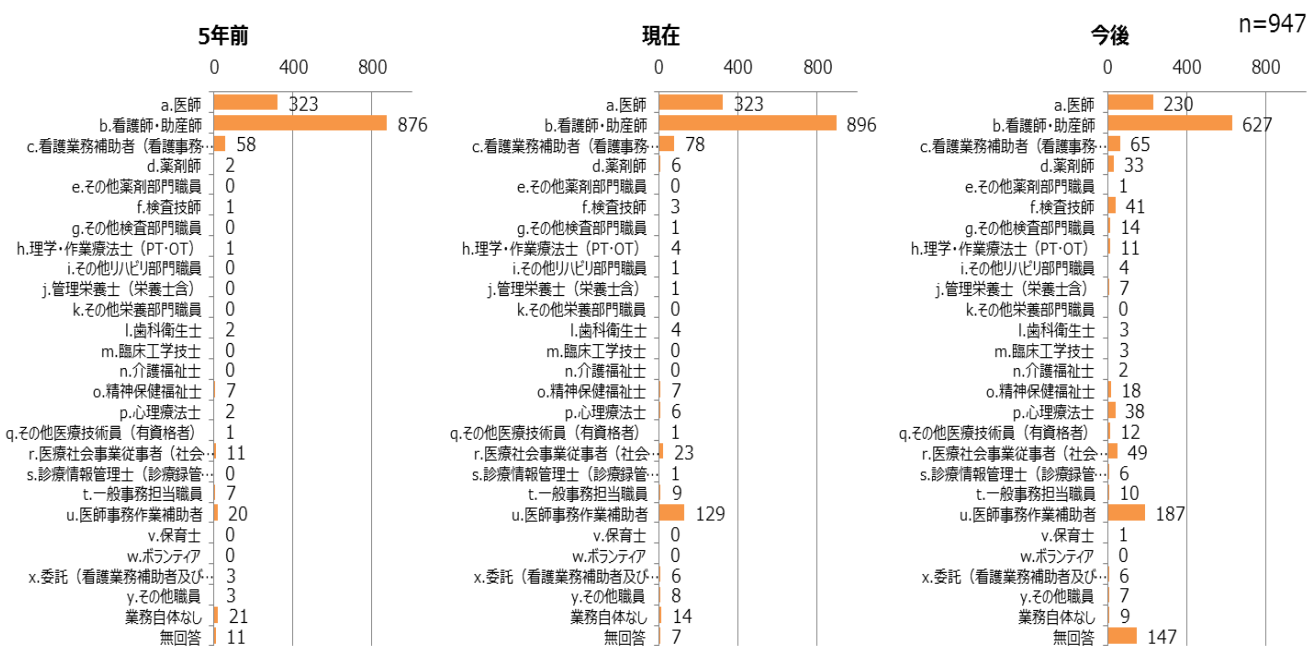
a. 医師、b. 看護師・助産師、c. 看護業務補助者(看護事務補助者・介護職員含)、d. 薬剤師、e. その他薬剤部門職員、f. 検査技師、g. その他検査部門職員、h. 理学・作業療法士(PT・OT)、i. その他リハビリ部門職員、j. 管理栄養士(栄養士含)、k. その他栄養部門職員、l. 歯科衛生士、m. 臨床工学技士、n. 介護福祉士、o. 精神保健福祉士、p. 心理療法士、q. その他医療技術員(有資格者)、r. 医療社会事業従事者(社会福祉士等)、s. 診療情報管理士(診療録管理士)、t. 一般事務担当職員、u. 医師事務作業補助者、v. 保育士、w. ボランティア、x. 委託(看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く)、y. その他職員

1. 外来における役割分担

・「病状・手術・検査説明の同席」

『5年前（平成22年度）』は大半が医師・看護師が行っていたが、『現在（平成27年6月）』は医師34.1%・看護師94.6%に加えて医師事務作業補助者が13.6%と増加している。『今後』は、医師24.3%・看護師66.2%と減っており、医師事務作業補助者は更に19.7%と高くなっている。委譲したい職種ではあるが、医師事務作業補助加算を取得していない施設が26.7%あり容易には業務分担できない現状もある。そして検査技師については、『5年前』・『現在』は0.1~0.3%だったが、『今後』は4.3%と増加している。どの施設でも専門分野への期待が伺える。自由意見にも検査・薬剤の説明は専門職種が実施するほうが患者にとっても安全・安心であると意見があった。

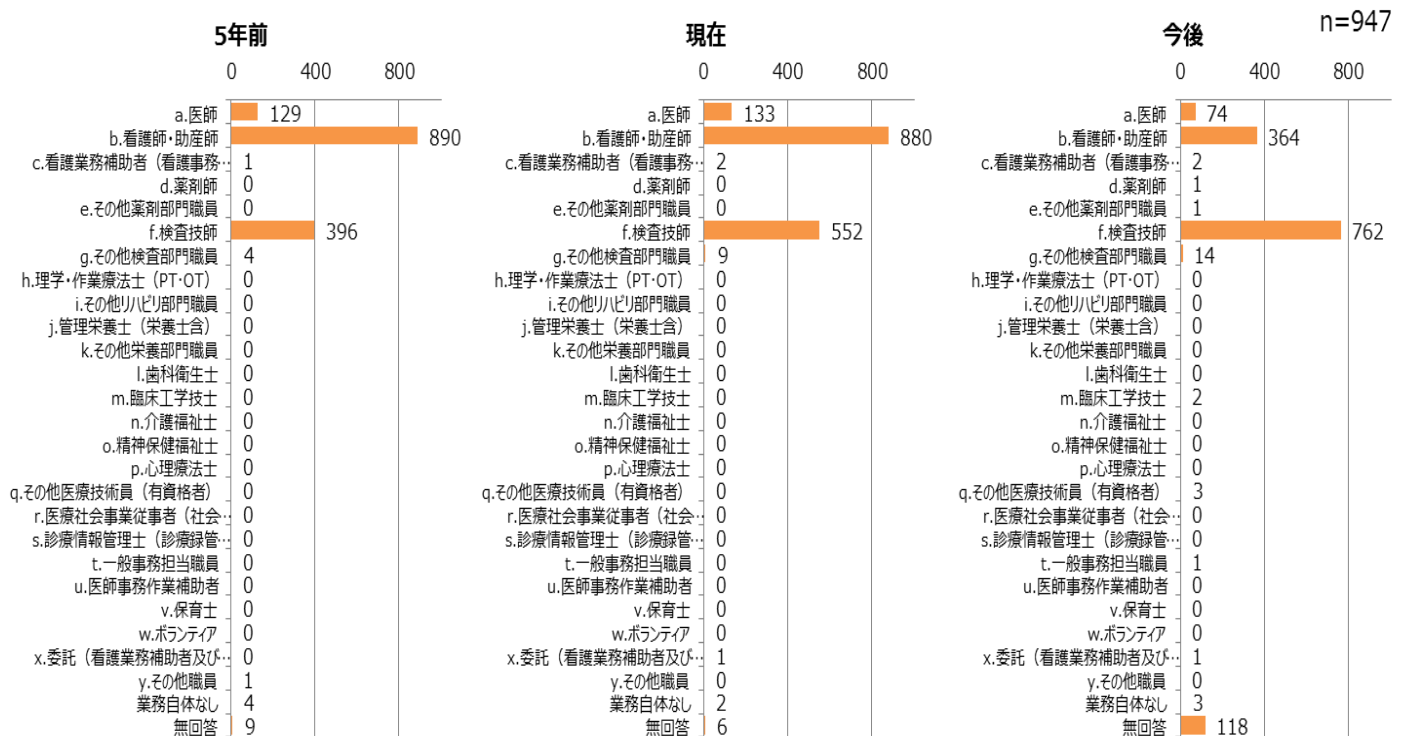
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	323	34.1%	323	34.1%	230	24.3%
b.看護師・助産師	876	92.5%	896	94.6%	627	66.2%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	58	6.1%	78	8.2%	65	6.9%
d.薬剤師	2	0.2%	6	0.6%	33	3.5%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
f.検査技師	1	0.1%	3	0.3%	41	4.3%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	14	1.5%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	1	0.1%	4	0.4%	11	1.2%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	1	0.1%	4	0.4%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	1	0.1%	7	0.7%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	2	0.2%	4	0.4%	3	0.3%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
o.精神保健福祉士	7	0.7%	7	0.7%	18	1.9%
p.心理療法士	2	0.2%	6	0.6%	38	4.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	1	0.1%	1	0.1%	12	1.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	11	1.2%	23	2.4%	49	5.2%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	1	0.1%	6	0.6%
t.一般事務担当職員	7	0.7%	9	1.0%	10	1.1%
u.医師事務作業補助者	20	2.1%	129	13.6%	187	19.7%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	3	0.3%	6	0.6%	6	0.6%
y.その他職員	3	0.3%	8	0.8%	7	0.7%
業務自体なし	21	2.2%	14	1.5%	9	1.0%
無回答	11	1.2%	7	0.7%	147	15.5%



・「採血」

『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』は医師・看護師が圧倒的に多く、検査技師は、『5年前』41.8%『現在』は58.3%だった。『今後』は検査技師が80.5%とかなり増加しており、移譲したい業務内容は明確である。しかし重症者や困難事例は、医師・看護師が行うべきと意見もあり、通常の場合と個別事例は協働すべき業務内容と考える。

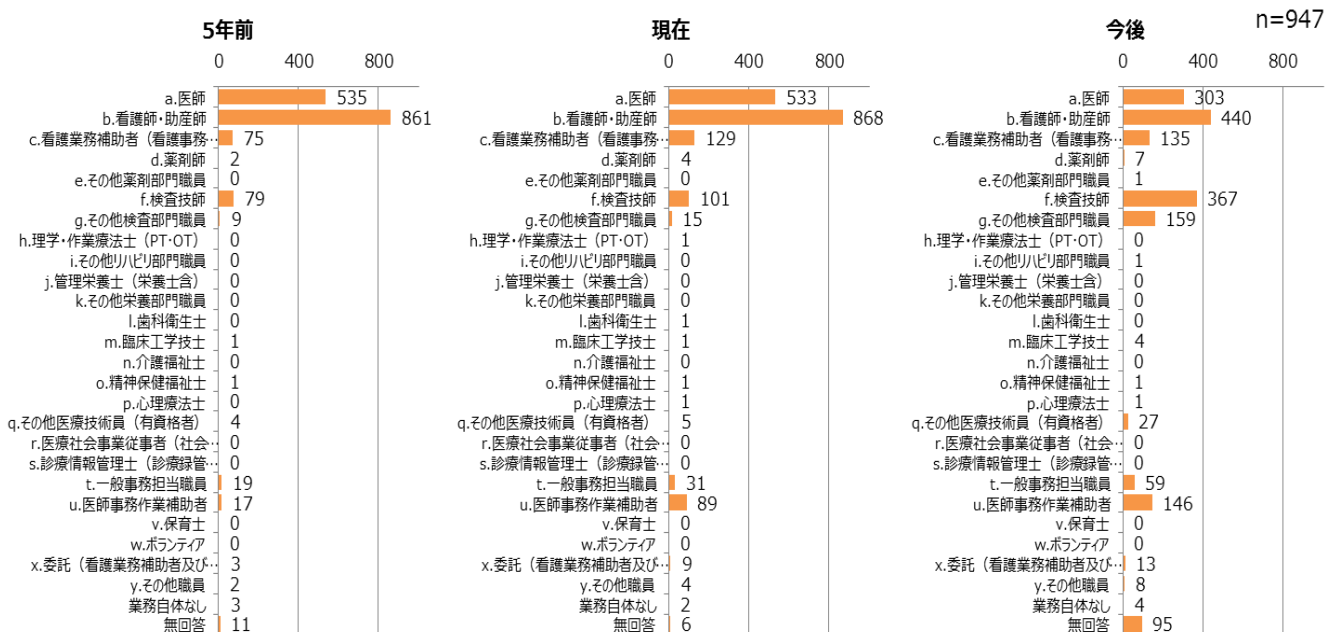
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	129	13.6%	133	14.0%	74	7.8%
b.看護師・助産師	890	94.0%	880	92.9%	364	38.4%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	1	0.1%	2	0.2%	2	0.2%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
f.検査技師	396	41.8%	552	58.3%	762	80.5%
g.その他検査部門職員	4	0.4%	9	1.0%	14	1.5%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
y.その他職員	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	4	0.4%	2	0.2%	3	0.3%
無回答	9	1.0%	6	0.6%	118	12.5%



・「検査説明」

『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』の割合は、医師・看護師が多く若干『現在』が看護補助者と検査技師が増えていた。しかし『今後』は検査技師38.8%・その他検査技師16.8%、医師事務作業補助者15.4%とかなり増加しており、医師32.0%・看護師は46.5%に減っている。自由意見にも技術職として役割に応じた分業をしてほしいとあった。

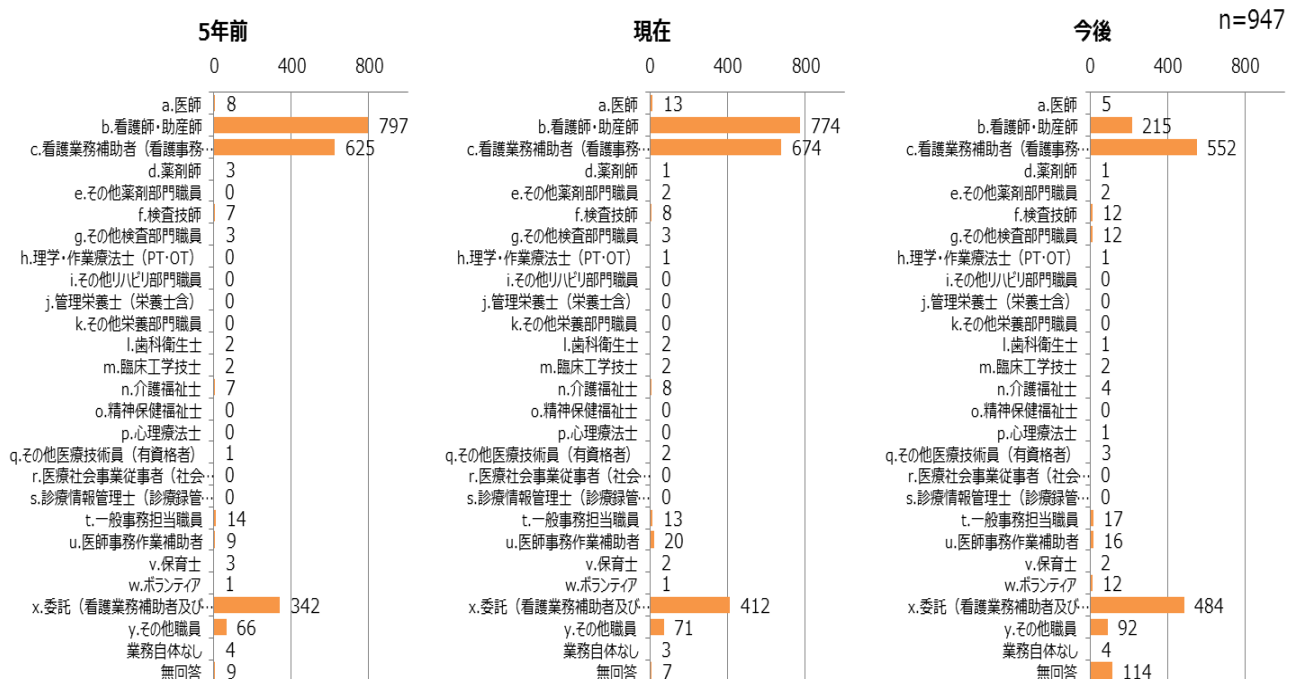
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	535	56.5%	533	56.3%	303	32.0%
b.看護師・助産師	861	90.9%	868	91.7%	440	46.5%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	75	7.9%	129	13.6%	135	14.3%
d.薬剤師	2	0.2%	4	0.4%	7	0.7%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
f.検査技師	79	8.3%	101	10.7%	367	38.8%
g.その他検査部門職員	9	1.0%	15	1.6%	159	16.8%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
m.臨床工学技士	1	0.1%	1	0.1%	4	0.4%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
p.心理療法士	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
q.その他医療技術員（有資格者）	4	0.4%	5	0.5%	27	2.9%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	19	2.0%	31	3.3%	59	6.2%
u.医師事務作業補助者	17	1.8%	89	9.4%	146	15.4%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	3	0.3%	9	1.0%	13	1.4%
y.その他職員	2	0.2%	4	0.4%	8	0.8%
業務自体なし	3	0.3%	2	0.2%	4	0.4%
無回答	11	1.2%	6	0.6%	95	10.0%



・「片付け・清掃・廃棄物の処理」

『5年前(平成22年度)』と『現在(平成27年6月)』は看護師84.2%・81.7%、看護補助者66.0%・71.2%が多い。加えて委託も『現在』は43.5%あった。『今後』、看護師は22.7%に減り、看護補助者は58.3%で委託が51.1%と半数を超えた。『今後』への期待として看護師や看護補助者の割合は減っており、医療スタッフ以外ができる業務は委託業者にまかせたいと考える。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	8	0.8%	13	1.4%	5	0.5%
b.看護師・助産師	797	84.2%	774	81.7%	215	22.7%
c.看護業務補助者(看護事務補助者・介護職員含)	625	66.0%	674	71.2%	552	58.3%
d.薬剤師	3	0.3%	1	0.1%	1	0.1%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	2	0.2%	2	0.2%
f.検査技師	7	0.7%	8	0.8%	12	1.3%
g.その他検査部門職員	3	0.3%	3	0.3%	12	1.3%
h.理学・作業療法士(PT・OT)	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士(栄養士含)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	2	0.2%	2	0.2%	1	0.1%
m.臨床工学技士	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%
n.介護福祉士	7	0.7%	8	0.8%	4	0.4%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
q.その他医療技術員(有資格者)	1	0.1%	2	0.2%	3	0.3%
r.医療社会事業従事者(社会福祉士等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士(診療録管理士)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	14	1.5%	13	1.4%	17	1.8%
u.医師事務作業補助者	9	1.0%	20	2.1%	16	1.7%
v.保育士	3	0.3%	2	0.2%	2	0.2%
w.ボランティア	1	0.1%	1	0.1%	12	1.3%
x.委託(看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く)	342	36.1%	412	43.5%	484	51.1%
y.その他職員	66	7.0%	71	7.5%	92	9.7%
業務自体なし	4	0.4%	3	0.3%	4	0.4%
無回答	9	1.0%	7	0.7%	114	12.0%



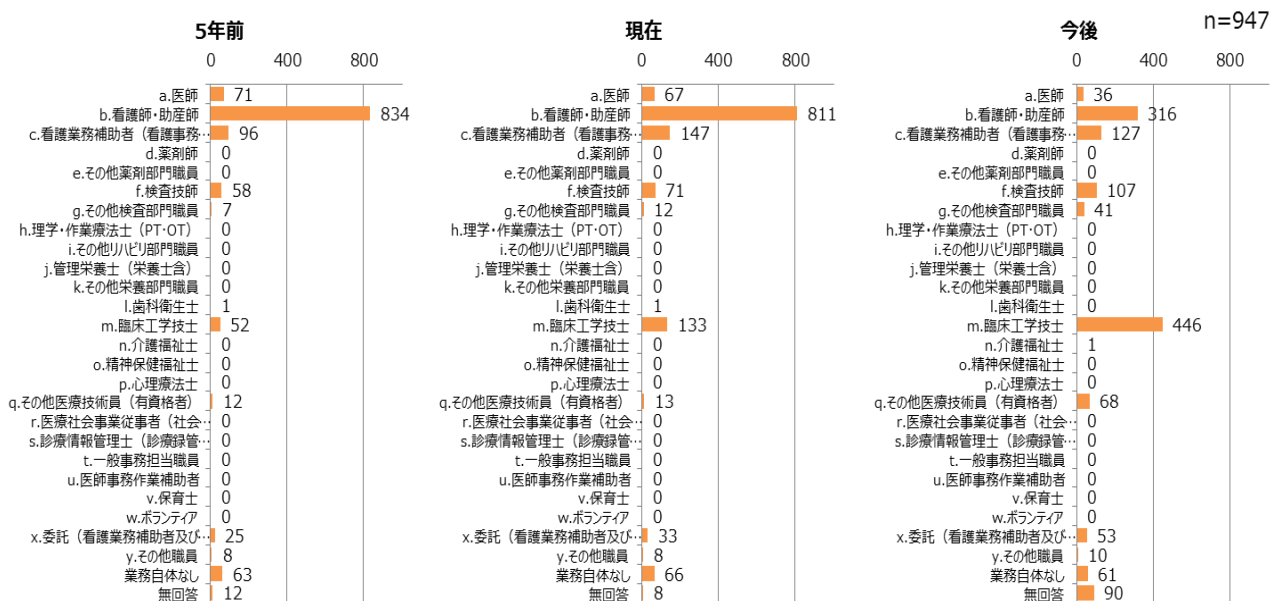
2. 内視鏡室における役割分担

・「光源・スコープ準備、点検」

看護師・助産師の『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』の割合はほとんど減っていないが、『今後』は他職種に移譲したい割合が高い。移譲したい職種は臨床工学技士が47.1%と一番多く、次に看護業務補助者、検査技師と続いている。『今後』の割合では臨床工学技士が看護師・助産師を上回り、逆に、看護業務補助者は低くなっている。自由意見でも「準備・片付け・点検、器械だしは臨床工学技士などに委ねたい」「看護業務か移譲できる業務課の検討をしている」「今後の臨床工学技士の活用では院内教育が必要」とあった。

「光源・スコープ準備・点検」では、臨床工学技士の専門的なスキルへ委ねたいという期待が大きいと思われる。

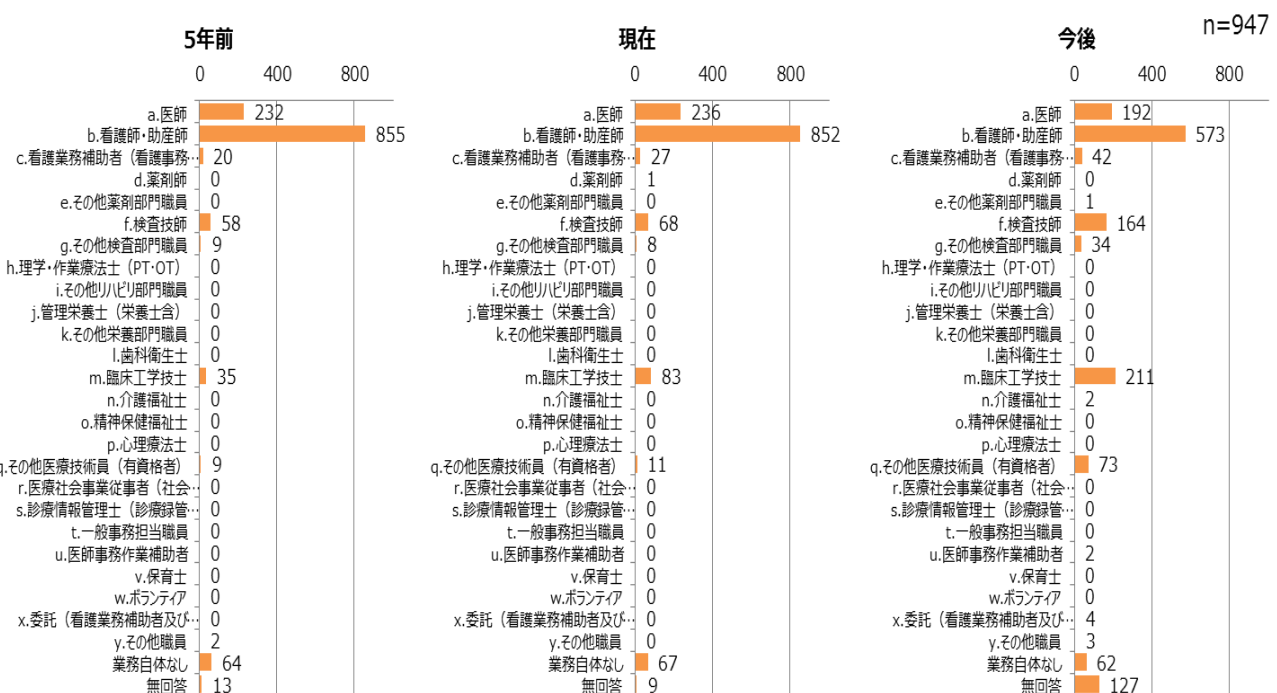
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	71	7.5%	67	7.1%	36	3.8%
b.看護師・助産師	834	88.1%	811	85.6%	316	33.4%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	96	10.1%	147	15.5%	127	13.4%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	58	6.1%	71	7.5%	107	11.3%
g.その他検査部門職員	7	0.7%	12	1.3%	41	4.3%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
m.臨床工学技士	52	5.5%	133	14.0%	446	47.1%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	12	1.3%	13	1.4%	68	7.2%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	25	2.6%	33	3.5%	53	5.6%
y.その他職員	8	0.8%	8	0.8%	10	1.1%
業務自体なし	63	6.7%	66	7.0%	61	6.4%
無回答	12	1.3%	8	0.8%	90	9.5%



・「内視鏡処置・治療介助」

看護師・助産師の割合は『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』の看護師の割合はほとんど減っていない。『今後』、他職種に移譲したい割合は「スコープの準備・点検」「スコープ洗浄」より少ない。移譲したい職種は臨床工学技士が一番多く、次に検査技師、その他の医療技術員と続く。自由意見では「準備・片付け・点検、器械だしは臨床工学技士などに委ねたい」「看護業務が移譲できる業務かの検討をしている」とあった。また、「今後の臨床工学技士の活用では院内教育が必要」とあり、「内視鏡処置・治療介助」を移譲する場合は特に必要であると思われる。以上のことから、「内視鏡処置・治療介助」は看護師の業務と捉えている施設が多いと考える。

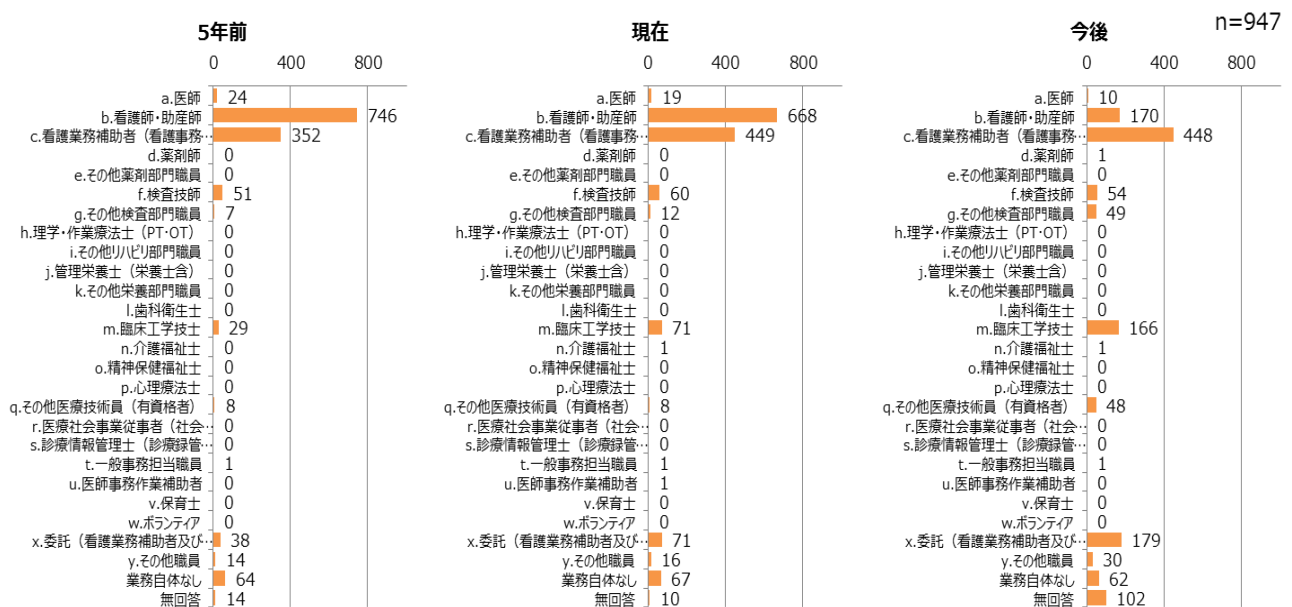
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	232	24.5%	236	24.9%	192	20.3%
b.看護師・助産師	855	90.3%	852	90.0%	573	60.5%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	20	2.1%	27	2.9%	42	4.4%
d.薬剤師	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
f.検査技師	58	6.1%	68	7.2%	164	17.3%
g.その他検査部門職員	9	1.0%	8	0.8%	34	3.6%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	35	3.7%	83	8.8%	211	22.3%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	9	1.0%	11	1.2%	73	7.7%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%
y.その他職員	2	0.2%	0	0.0%	3	0.3%
業務自体なし	64	6.8%	67	7.1%	62	6.5%
無回答	13	1.4%	9	1.0%	127	13.4%



・「スコープ洗浄」

看護師・助産師の割合は「光源スコープの準備・点検」(P13)「内視鏡処置・治療介助」(P14)と比較して低い。洗浄業務については『5年前(平成22年度)』から『現在(平成27年6月)』まで、少しずつ看護業務補助者に移譲してきている状況が推測される。『今後』の看護師・助産師の割合は18%と少なく、看護業務補助者が47.3%と逆転している。委託18.9%も含めると、66.2%が補助者への移譲を希望している。臨床工学技師への移譲は17.5%と答えているが、準備点検や処置治療介助の割合よりは低い。自由意見では「準備・片付け・点検、器械だしは臨床工学技士などに委ねたい」という意見もあったが、スコープ洗浄については看護業務補助者への移譲を希望している。

	5年前		現在		今後		n=947
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合	
a.医師	24	2.5%	19	2.0%	10	1.1%	
b.看護師・助産師	746	78.8%	668	70.5%	170	18.0%	
c.看護業務補助者(看護事務補助者・介護職員含)	352	37.2%	449	47.4%	448	47.3%	
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
f.検査技師	51	5.4%	60	6.3%	54	5.7%	
g.その他検査部門職員	7	0.7%	12	1.3%	49	5.2%	
h.理学・作業療法士(P.T・O.T)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
j.管理栄養士(栄養士含)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
m.臨床工学技士	29	3.1%	71	7.5%	166	17.5%	
n.介護福祉士	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%	
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
q.その他医療技術員(有資格者)	8	0.8%	8	0.8%	48	5.1%	
r.医療社会事業従事者(社会福祉士等)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
s.診療情報管理士(診療録管理士)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
t.一般事務担当職員	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%	
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
x.委託(看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く)	38	4.0%	71	7.5%	179	18.9%	
y.その他職員	14	1.5%	16	1.7%	30	3.2%	
業務自体なし	64	6.8%	67	7.1%	62	6.5%	
無回答	14	1.5%	10	1.1%	102	10.8%	

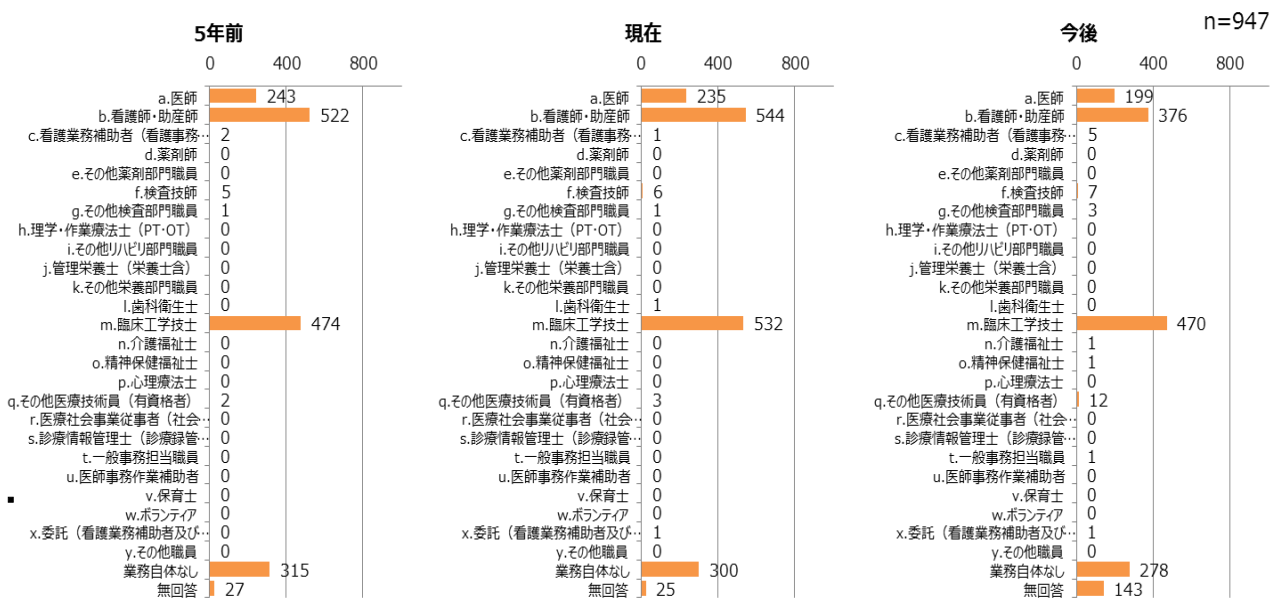


3. 透析室における役割分担

・「穿刺・回収」

『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』では、医師、看護師・助産師の割合に変化はなく、臨床工学技士が『5年前』50.1%から『現在』56.2%と6.1%高い割合となっている。検査技師が0.6%と少数であるが役割を担っている。『今後』は看護師・助産師の割合が39.7%と減っているが、医師、臨床工学技士の割合も減っており、役割分担できない現状が伺える。穿刺・回収については、それぞれの職種の役割分担が明確ではなく、共通業務として両者が行っているとの自由意見があった。また、穿刺は医師・看護師・助産師、回収は看護師、臨床工学技士、検査技師等に業務分担を行っている施設があり、その他の職種へ委譲することは困難であるが、看護師配置の割合を減らすことは可能であると考えられる。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	243	25.7%	235	24.8%	199	21.0%
b.看護師・助産師	522	55.1%	544	57.4%	376	39.7%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	2	0.2%	1	0.1%	5	0.5%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	5	0.5%	6	0.6%	7	0.7%
g.その他検査部門職員	1	0.1%	1	0.1%	3	0.3%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
m.臨床工学技士	474	50.1%	532	56.2%	470	49.6%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	2	0.2%	3	0.3%	12	1.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
y.その他職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	315	33.3%	300	31.7%	278	29.4%
無回答	27	2.9%	25	2.6%	143	15.1%

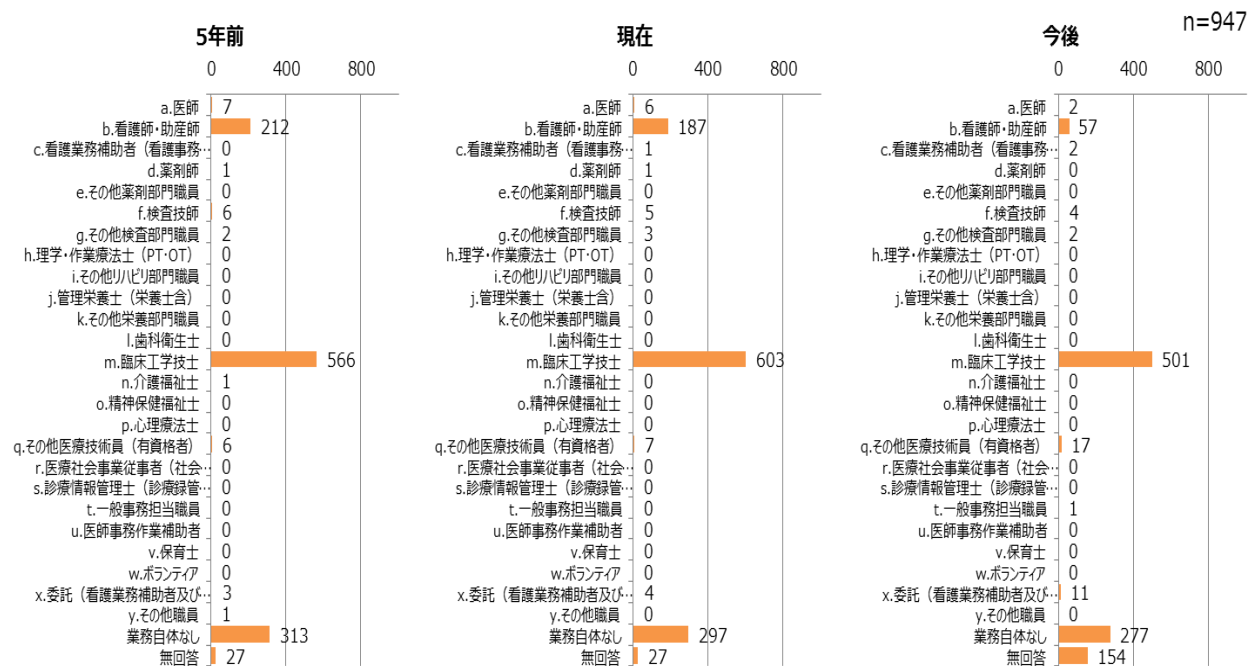


・「機器点検・管理」

『5年前（平成22年度）』看護師・助産師22.4%の割合から『現在（平成27年6月）』19.7%と2.7%減り、臨床工学技士は『5年前』59.8%から『現在』63.7%と3.9%増えている。『今後』は看護師・助産師の割合が6.0%と少なく、その分臨床工学技士が担うか、その他の医療技術員1.8%と委託1.2%を含めると、病院の状況により変化していくものと考えられる。

機器点検・管理は、専門職種へ委譲し、看護師・助産師は看護業務（患者指導等）に専念できるようにしたいという意見があり、臨床工学技士の専門的なスキルを発揮し、役割分担できることを望んでいる。

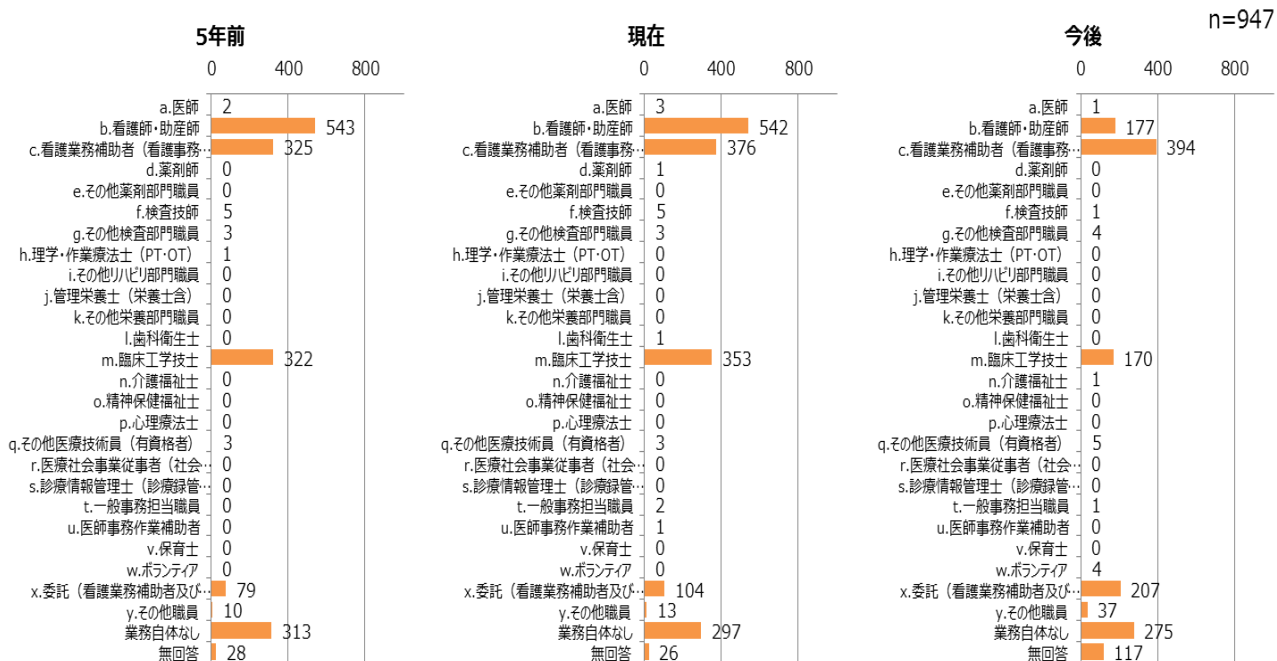
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	7	0.7%	6	0.6%	2	0.2%
b.看護師・助産師	212	22.4%	187	19.7%	57	6.0%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%
d.薬剤師	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	6	0.6%	5	0.5%	4	0.4%
g.その他検査部門職員	2	0.2%	3	0.3%	2	0.2%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	566	59.8%	603	63.7%	501	52.9%
n.介護福祉士	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	6	0.6%	7	0.7%	17	1.8%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	3	0.3%	4	0.4%	11	1.2%
y.その他職員	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	313	33.1%	297	31.4%	277	29.3%
無回答	27	2.9%	27	2.9%	154	16.3%



・「後片付け・清掃・ゴミ捨て」

看護師・助産師の割合は『5年前（平成22年度）』と『現在（平成27年6月）』は変化なく、清掃・ゴミ捨てについては少しずつ看護業務補助者に委譲してきている。また、委託（看護業務補助者等）は『現在』では11%と、『5年前』より2.7%増えている。『今後』の看護師・助産師の割合は18.7%と少なく、看護補助者41.6%、委託21.9%を含めると63.5%が看護業務補助者への委譲を希望している。自由意見では、「無資格者でもできる業務内容と内容の明確化を行い、実施できるよう業務改善が必須であることや、院内教育等を行い業務拡大を図る必要がある。」とあり、看護業務補助者や委託への業務分担はさらに進む傾向があり、業務の明確化や教育体制については課題である。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	2	0.2%	3	0.3%	1	0.1%
b.看護師・助産師	543	57.3%	542	57.2%	177	18.7%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	325	34.3%	376	39.7%	394	41.6%
d.薬剤師	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	5	0.5%	5	0.5%	1	0.1%
g.その他検査部門職員	3	0.3%	3	0.3%	4	0.4%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
m.臨床工学技士	322	34.0%	353	37.3%	170	18.0%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	3	0.3%	3	0.3%	5	0.5%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	2	0.2%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	79	8.3%	104	11.0%	207	21.9%
y.その他職員	10	1.1%	13	1.4%	37	3.9%
業務自体なし	313	33.1%	297	31.4%	275	29.0%
無回答	28	3.0%	26	2.7%	117	12.4%



4. 病棟における役割分担

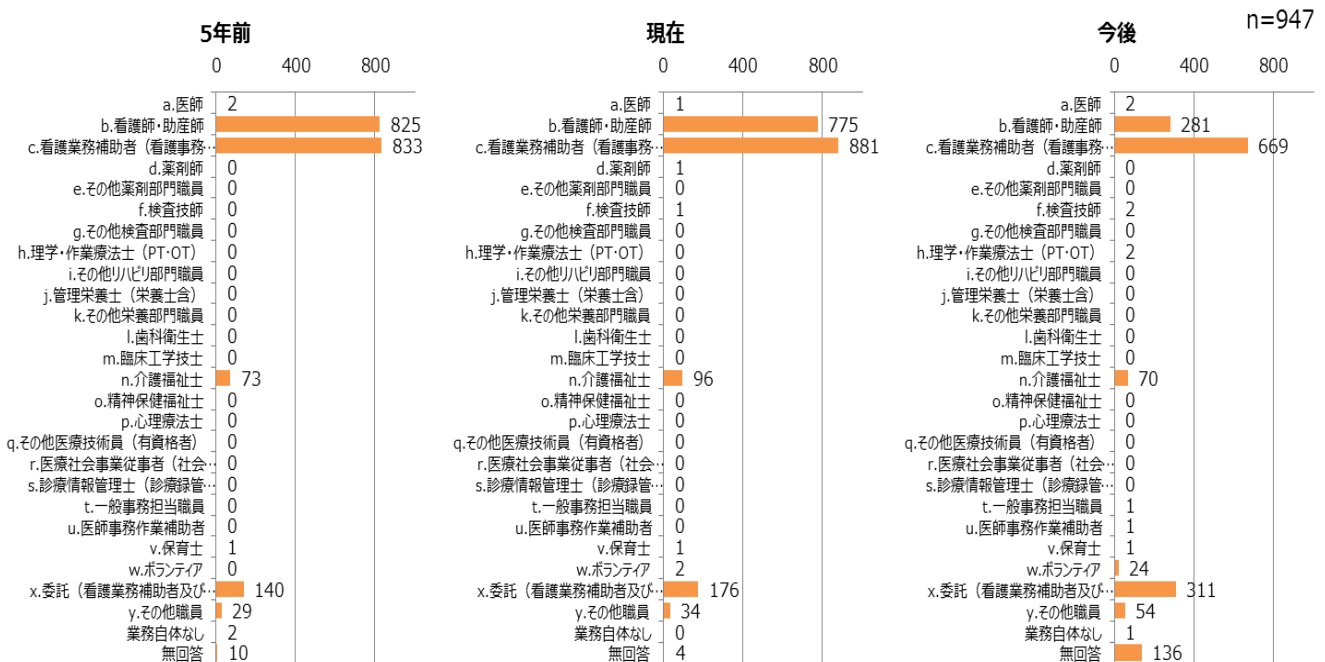
・「環境整備（病室）」、「ベッドメイキング」

「環境整備」「ベッドメイキング」は、同じような傾向がみられる。

『5年前（平成22年度）』は、看護師・助産師と看護業務補助者がほぼ同じ割合で行っており、その他介護福祉士、委託の看護補助者が1割前後行っていた。『現在（平成27年6月）』、看護師・助産師よりも看護業務補助者（委託を含め）の割合が多くなり、『今後』は、さらにその傾向が強くなることが予想される。自由意見でも教育は必要であるが看護業務補助者に委譲することのハードルは低いとあった。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%
b.看護師・助産師	825	87.1%	775	81.8%	281	29.7%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	833	88.0%	881	93.0%	669	70.6%
d.薬剤師	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
n.介護福祉士	73	7.7%	96	10.1%	70	7.4%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
v.保育士	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
w.ボランティア	0	0.0%	2	0.2%	24	2.5%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	140	14.8%	176	18.6%	311	32.8%
y.その他職員	29	3.1%	34	3.6%	54	5.7%
業務自体なし	2	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
無回答	10	1.1%	4	0.4%	136	14.4%

n=947

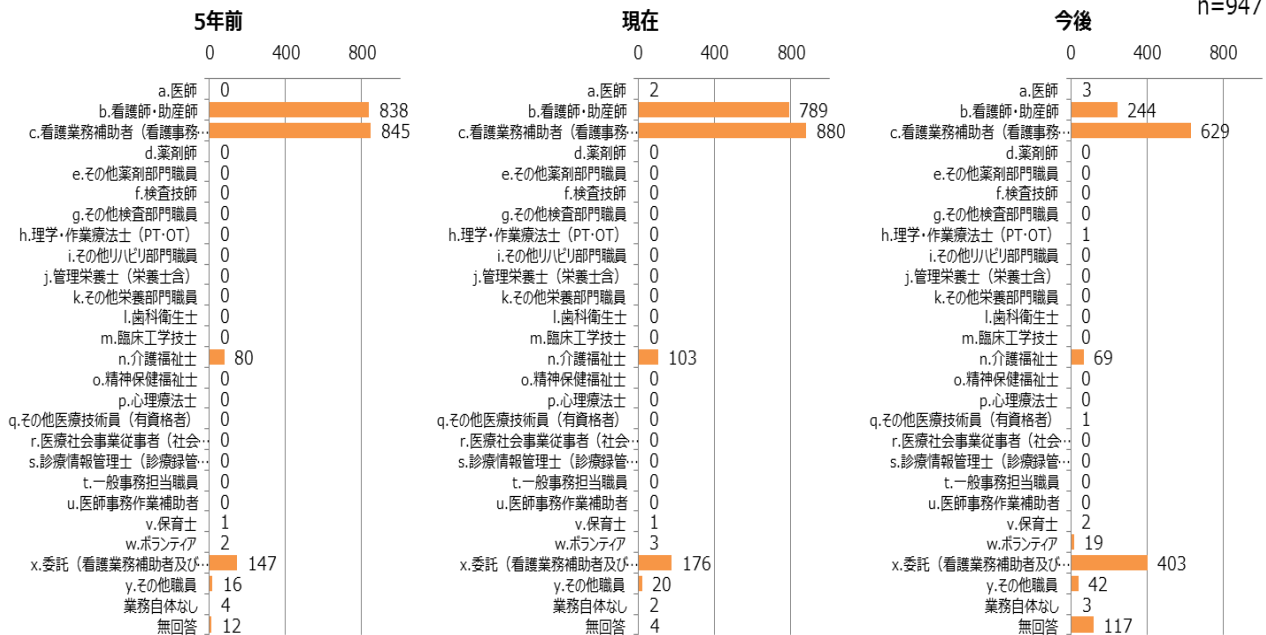


n=947

n=947

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	0	0.0%	2	0.2%	3	0.3%
b.看護師・助産師	838	88.5%	789	83.3%	244	25.8%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	845	89.2%	880	92.9%	629	66.4%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
n.介護福祉士	80	8.4%	103	10.9%	69	7.3%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
w.ボランティア	2	0.2%	3	0.3%	19	2.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	147	15.5%	176	18.6%	403	42.6%
y.その他職員	16	1.7%	20	2.1%	42	4.4%
業務自体なし	4	0.4%	2	0.2%	3	0.3%
無回答	12	1.3%	4	0.4%	117	12.4%

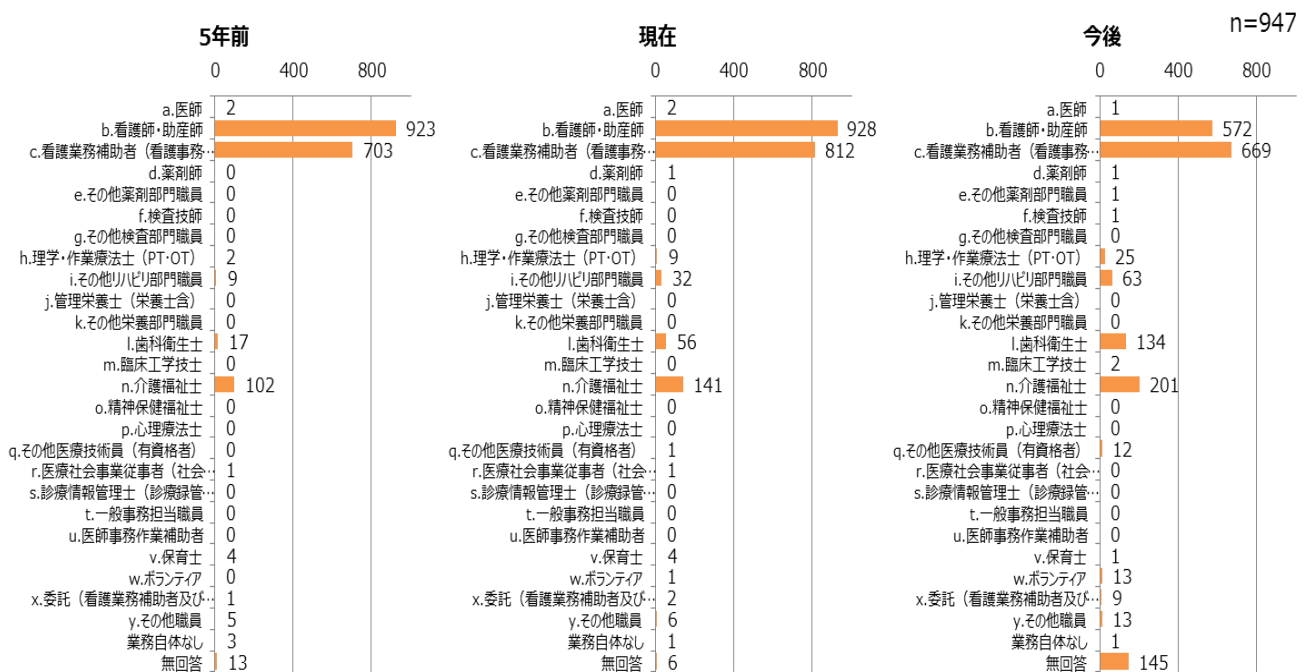
n=947



・「清潔ケア（清拭、洗髪、入浴介助、口腔ケア等）」

『5年前（平成22年度）』は看護師の割合が一番多く、次いで看護業務補助者が行っていた。また介護福祉士も1割程度行っていた。『現在（平成27年6月）』も看護師の割合が一番多いが、看護業務補助者の割合が10%程度伸び看護師と同じ割合になりつつある。介護福祉士も（10.8%→21.2%）と増加がみられる。『今後』は、看護師の割合が6割程度に減少し、看護業務補助者や介護福祉士の割合が増えている。さらに5年前わずか1.8%であった歯科衛生士が14.1%と増え、口腔ケアの役割分担を希望していることがわかる。しかし、患者の状態によって看護師が行うべき場合と、委譲する場合を明確にすることも重要との意見があった。

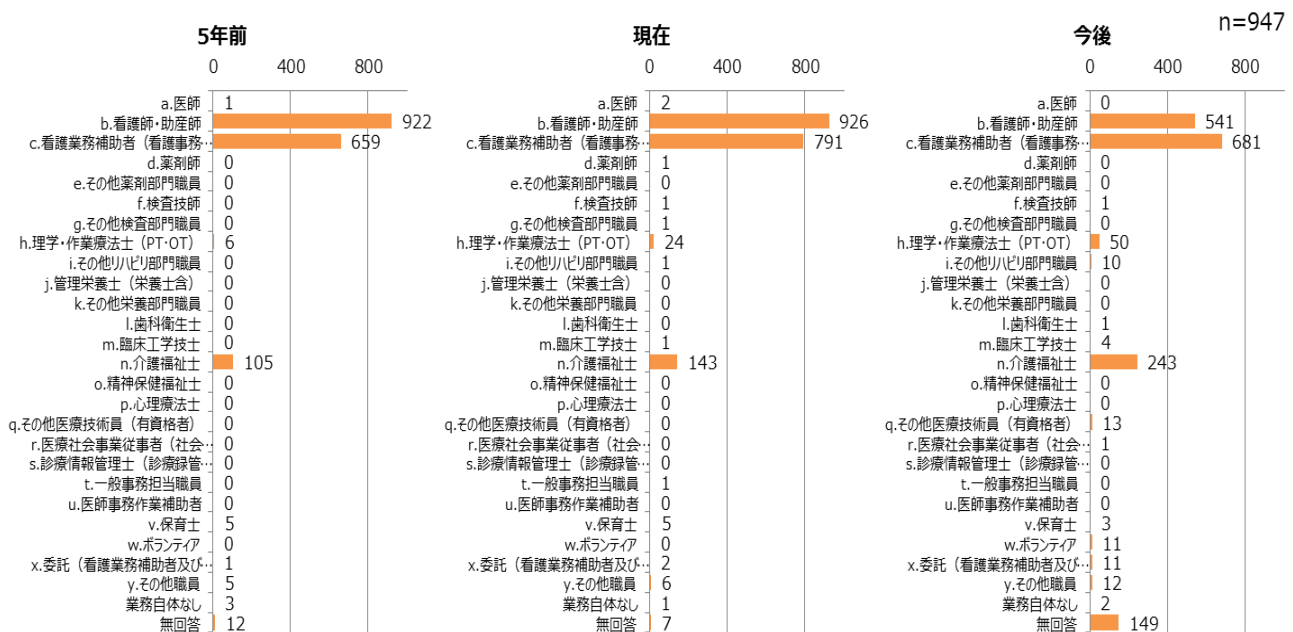
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	2	0.2%	2	0.2%	1	0.1%
b.看護師・助産師	923	97.5%	928	98.0%	572	60.4%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	703	74.2%	812	85.7%	669	70.6%
d.薬剤師	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
f.検査技師	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	2	0.2%	9	1.0%	25	2.6%
i.その他リハビリ部門職員	9	1.0%	32	3.4%	63	6.7%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	17	1.8%	56	5.9%	134	14.1%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
n.介護福祉士	102	10.8%	141	14.9%	201	21.2%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	1	0.1%	12	1.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	4	0.4%	4	0.4%	1	0.1%
w.ボランティア	0	0.0%	1	0.1%	13	1.4%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	1	0.1%	2	0.2%	9	1.0%
y.その他職員	5	0.5%	6	0.6%	13	1.4%
業務自体なし	3	0.3%	1	0.1%	1	0.1%
無回答	13	1.4%	6	0.6%	145	15.3%



・「排泄ケア（トイレ誘導、おむつ交換を含む）」

『5年前（平成22年度）』も『現在（平成27年6月）』も看護師の割合は変わらない。看護業務補助者は、（69.6%→83.5%）と増加傾向にある。『今後』は、看護業務補助者、介護福祉士への業務分担が増え、さらには理学・作業療法士への分担も5～6%ではあるが期待がある。理学・作業療法士への分担は、高齢化と早期離床のためベッドサイドで日常生活動作へのリハビリ介入の必要性が高まっていることから予想できる。看護業務補助者等と協働しても看護師にしかできない排泄ケアがあることを認識していなければいけないという自由意見もあった。

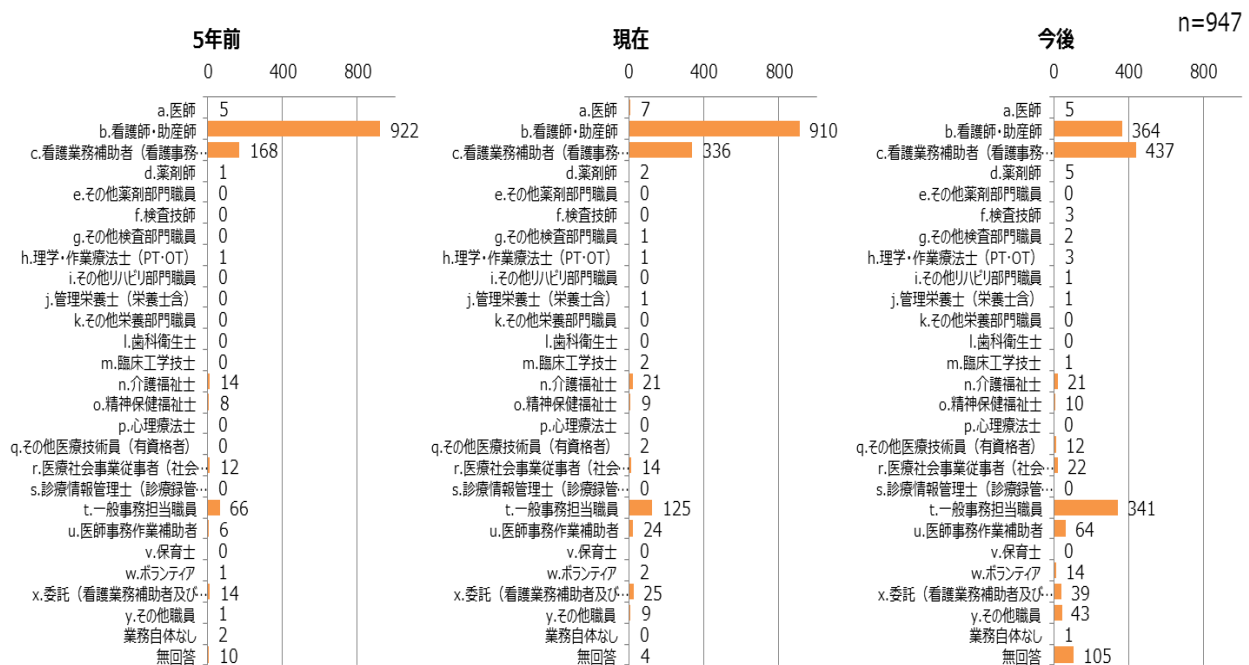
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	1	0.1%	2	0.2%	0	0.0%
b.看護師・助産師	922	97.4%	926	97.8%	541	57.1%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	659	69.6%	791	83.5%	681	71.9%
d.薬剤師	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	6	0.6%	24	2.5%	50	5.3%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	1	0.1%	10	1.1%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
m.臨床工学技士	0	0.0%	1	0.1%	4	0.4%
n.介護福祉士	105	11.1%	143	15.1%	243	25.7%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	13	1.4%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	5	0.5%	5	0.5%	3	0.3%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	11	1.2%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	1	0.1%	2	0.2%	11	1.2%
y.その他職員	5	0.5%	6	0.6%	12	1.3%
業務自体なし	3	0.3%	1	0.1%	2	0.2%
無回答	12	1.3%	7	0.7%	149	15.7%



・「入院時の対応（オリエンテーション）」

『5年前（平成22年度）』はほとんど看護師であったが、『現在（平成27年6月）』は看護業務補助者（35.5%）や一般事務担当職員（13.2%）が行っている。『今後』は、看護師は38.4%に減り、看護業務補助者（46.1%）や一般事務担当職員（36%）が行っていくことが予想される。自由意見でもマニュアル通りで済む場合は、役割分担したいとあった。

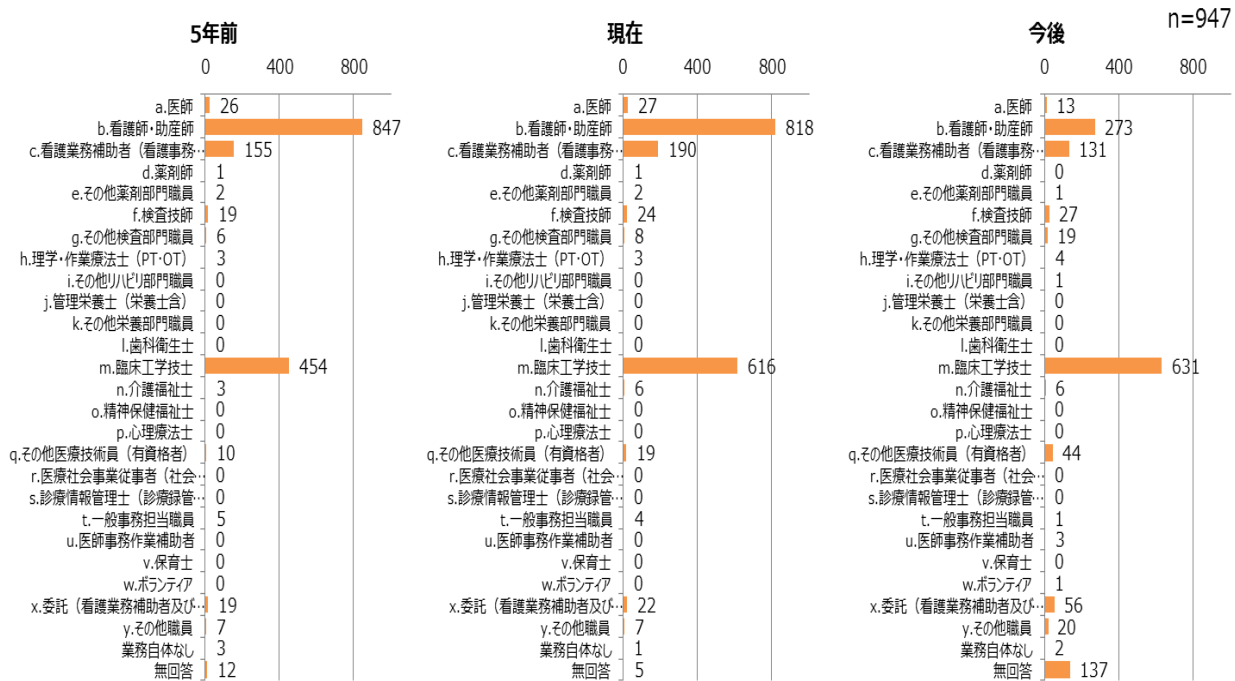
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	5	0.5%	7	0.7%	5	0.5%
b.看護師・助産師	922	97.4%	910	96.1%	364	38.4%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	168	17.7%	336	35.5%	437	46.1%
d.薬剤師	1	0.1%	2	0.2%	5	0.5%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	1	0.1%	1	0.1%	3	0.3%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	0	0.0%	2	0.2%	1	0.1%
n.介護福祉士	14	1.5%	21	2.2%	21	2.2%
o.精神保健福祉士	8	0.8%	9	1.0%	10	1.1%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	2	0.2%	12	1.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	12	1.3%	14	1.5%	22	2.3%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	66	7.0%	125	13.2%	341	36.0%
u.医師事務作業補助者	6	0.6%	24	2.5%	64	6.8%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	1	0.1%	2	0.2%	14	1.5%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	14	1.5%	25	2.6%	39	4.1%
y.その他職員	1	0.1%	9	1.0%	43	4.5%
業務自体なし	2	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
無回答	10	1.1%	4	0.4%	105	11.1%



・「診療機器・器具の点検、管理」

『5年前（平成22年度）』から『現在（平成26年7月）』まで看護師・助産師、臨床工学技士で行われることが多かった。『今後』、臨床工学技士の割合に変化がないにもかかわらず、看護師・助産師の割合も減っている。他職種に委譲したい要望はあるが、どの職種に役割分担すればいいのかわかりしない。臨床工学技士がいない、あるいは少ない施設も少なからずあるためと考えられる。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	26	2.7%	27	2.9%	13	1.4%
b.看護師・助産師	847	89.4%	818	86.4%	273	28.8%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	155	16.4%	190	20.1%	131	13.8%
d.薬剤師	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	2	0.2%	2	0.2%	1	0.1%
f.検査技師	19	2.0%	24	2.5%	27	2.9%
g.その他検査部門職員	6	0.6%	8	0.8%	19	2.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	3	0.3%	3	0.3%	4	0.4%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	454	47.9%	616	65.0%	631	66.6%
n.介護福祉士	3	0.3%	6	0.6%	6	0.6%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	10	1.1%	19	2.0%	44	4.6%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	5	0.5%	4	0.4%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	19	2.0%	22	2.3%	56	5.9%
y.その他職員	7	0.7%	7	0.7%	20	2.1%
業務自体なし	3	0.3%	1	0.1%	2	0.2%
無回答	12	1.3%	5	0.5%	137	14.5%

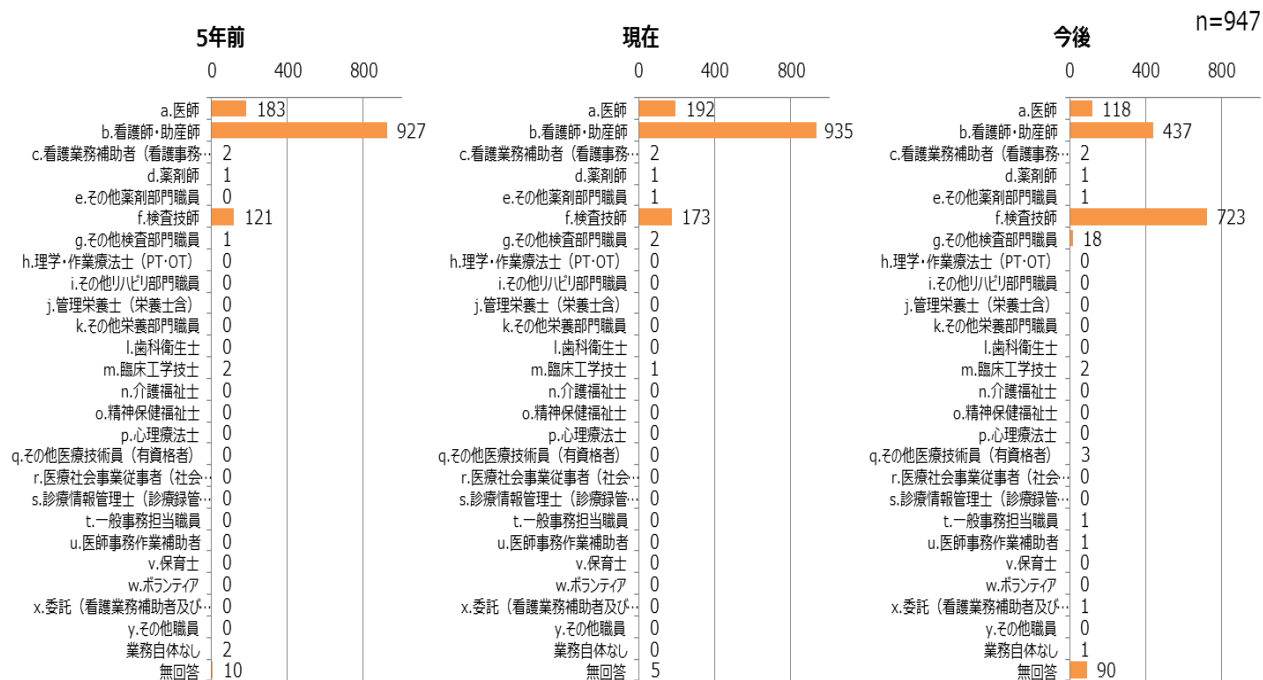


・「採血」

『5年前（平成22年度）』（97.9%）、医師（19.3%）、検査技師（12.8%）が担っていた。『現在（平成26年7月）』もその割合はあまり変化ないが、『今後』は医師、看護師が半分に減り検査技師が76.3%となっている。採血に関して検査技師への期待は大きい。

しかし、看護師に比べ少ない人数の職種への委譲は難しいと感じるという自由意見もあった。

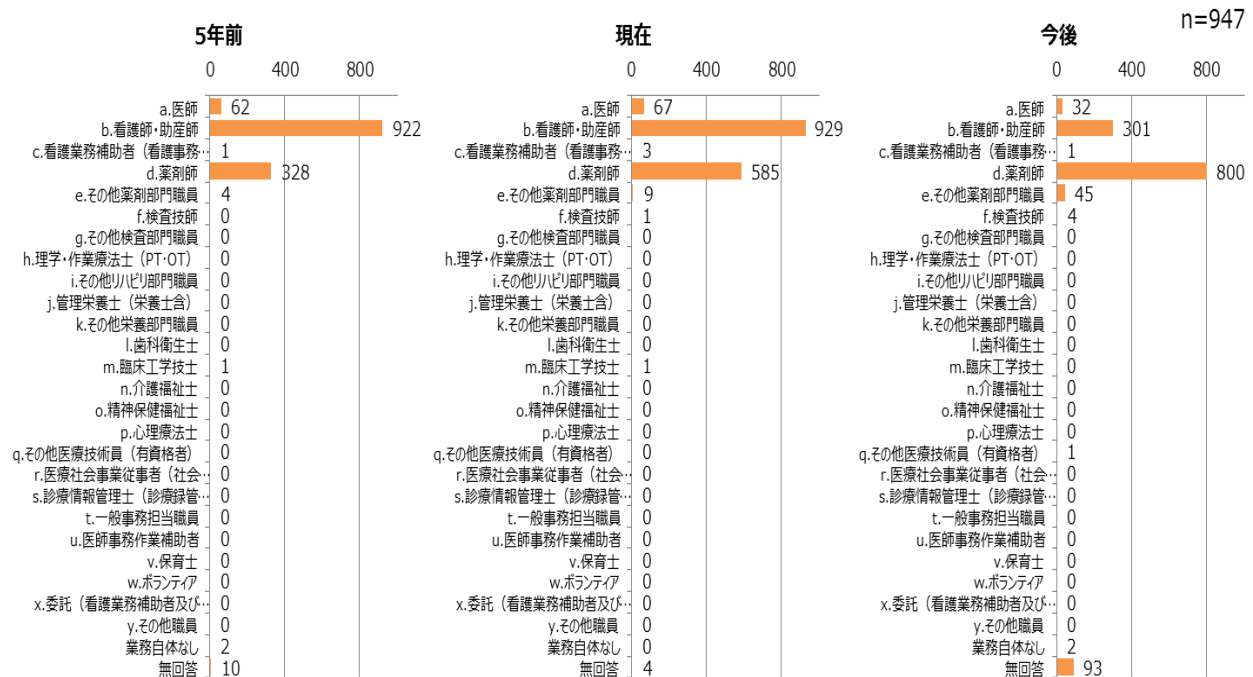
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	183	19.3%	192	20.3%	118	12.5%
b.看護師・助産師	927	97.9%	935	98.7%	437	46.1%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%
d.薬剤師	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
f.検査技師	121	12.8%	173	18.3%	723	76.3%
g.その他検査部門職員	1	0.1%	2	0.2%	18	1.9%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
y.その他職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	2	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
無回答	10	1.1%	5	0.5%	90	9.5%



・「注射薬の準備・混注」

看護師・助産師の『5年前（平成22年度）』と『現在（平成26年7月）』の割合はほとんど変わっていないが、薬剤師の割合は徐々に増え、『今後』は84.5%（5年前の2.5倍）とかなり役割分担の期待が大きい。逆に看護師・助産師は、1/3に減少している。ジェネリック薬品の導入など専門的知識を持って臨まないと安全性が確保できない状況があるとの意見もありチーム医療を進めるうえでも委譲を強く考えていることがわかる。

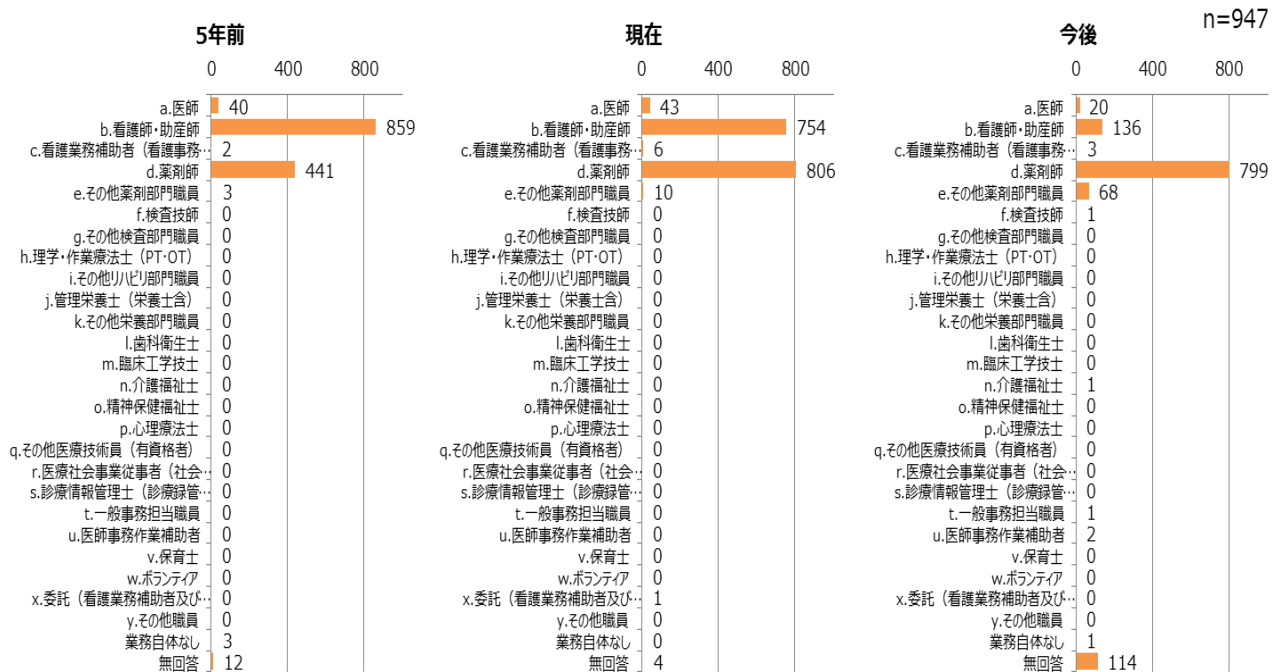
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	62	6.5%	67	7.1%	32	3.4%
b.看護師・助産師	922	97.4%	929	98.1%	301	31.8%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	1	0.1%	3	0.3%	1	0.1%
d.薬剤師	328	34.6%	585	61.8%	800	84.5%
e.その他薬剤部門職員	4	0.4%	9	1.0%	45	4.8%
f.検査技師	0	0.0%	1	0.1%	4	0.4%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
y.その他職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	2	0.2%	0	0.0%	2	0.2%
無回答	10	1.1%	4	0.4%	93	9.8%



・「持参薬チェック」

『5年前（平成22年度）』より薬剤師への委譲が進み、『現在（平成26年7月）』看護師・助産師を上回っている。『今後』はさらにその傾向が強まりほぼ薬剤師の役割となっている。

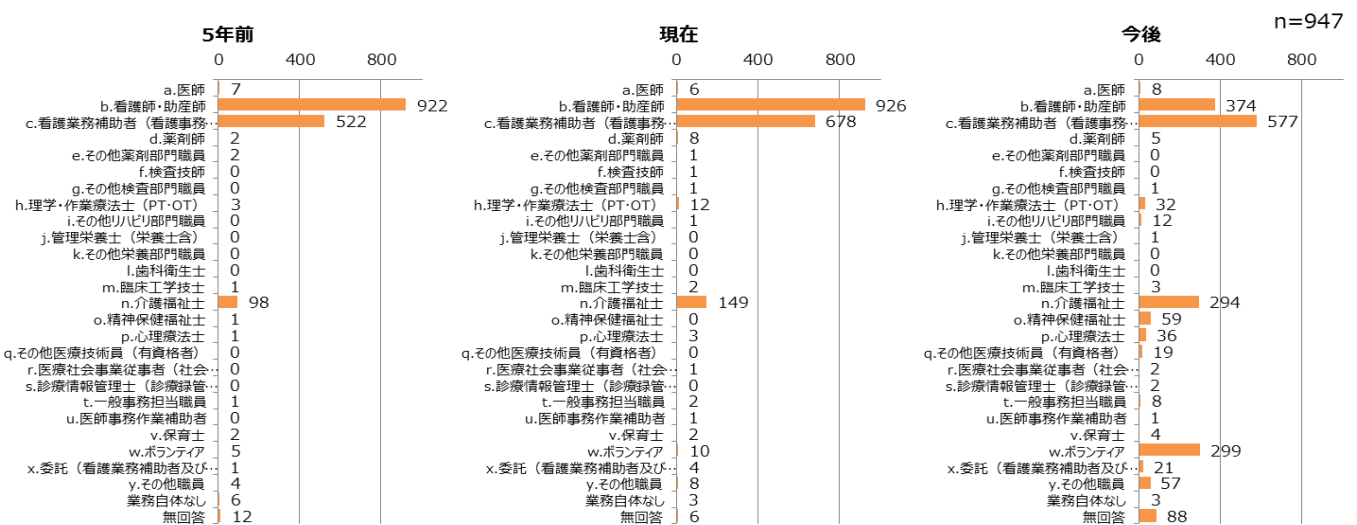
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	40	4.2%	43	4.5%	20	2.1%
b.看護師・助産師	859	90.7%	754	79.6%	136	14.4%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	2	0.2%	6	0.6%	3	0.3%
d.薬剤師	441	46.6%	806	85.1%	799	84.4%
e.その他薬剤部門職員	3	0.3%	10	1.1%	68	7.2%
f.検査技師	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
y.その他職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
業務自体なし	3	0.3%	0	0.0%	1	0.1%
無回答	12	1.3%	4	0.4%	114	12.0%



・認知症患者、不穏が見られる患者等の見守り

『5年前（平成22年度）』『現在（平成26年7月）』とも看護師・助産師の割合の変化はない。『今後』は、他職種に委譲したいと考えている。自由意見でも高齢化に伴い、認知症、せん妄・不穏状態の患者の対応には苦慮し多くの労力を要することや、そのために他の患者の看護に支障をきたし看護師のストレスや疲弊に繋がっている等の意見が多く見られた。看護業務補助者の割合は『5年前』～『今後』に至るまであまり変化がないが、見守りの必要な高齢者への対応に、今後ボランティアの活用を考えている施設が増加している。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	7	0.7%	6	0.6%	8	0.8%
b.看護師・助産師	922	97.4%	926	97.8%	374	39.5%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	522	55.1%	678	71.6%	577	60.9%
d.薬剤師	2	0.2%	8	0.8%	5	0.5%
e.その他薬剤部門職員	2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%
f.検査技師	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	3	0.3%	12	1.3%	32	3.4%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	1	0.1%	12	1.3%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	1	0.1%	2	0.2%	3	0.3%
n.介護福祉士	98	10.3%	149	15.7%	294	31.0%
o.精神保健福祉士	1	0.1%	0	0.0%	59	6.2%
p.心理療法士	1	0.1%	3	0.3%	36	3.8%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	19	2.0%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
t.一般事務担当職員	1	0.1%	2	0.2%	8	0.8%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
v.保育士	2	0.2%	2	0.2%	4	0.4%
w.ボランティア	5	0.5%	10	1.1%	299	31.6%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	1	0.1%	4	0.4%	21	2.2%
y.その他職員	4	0.4%	8	0.8%	57	6.0%
業務自体なし	6	0.6%	3	0.3%	3	0.3%
無回答	12	1.3%	6	0.6%	88	9.3%



<総括>

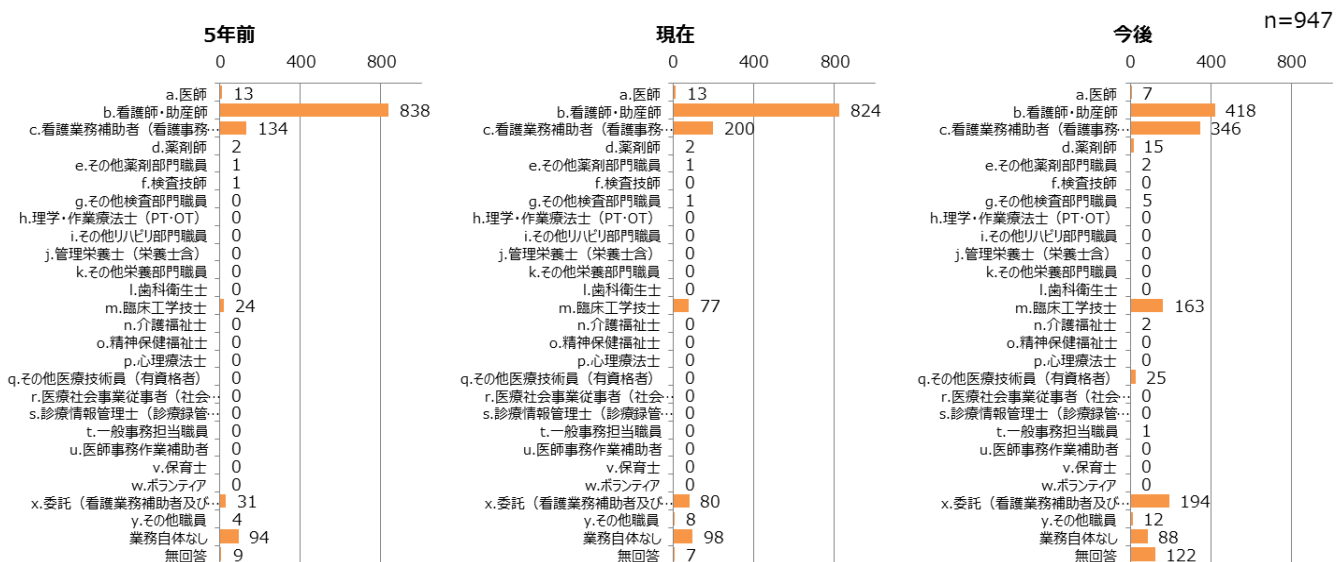
看護業務補助者への看護業務の分担は今後さらに進む傾向があるが、教育体制・マニュアル等整備しなくてはならない。役割分担は質の向上につながる事が前提であり、看護師でなくてはならない業務の明確化、責任の範囲の明確化が必要である。看護業務補助者に委譲した場合、必ず看護師が責任を持つ（関わる）体制も重要との意見があった。多くの文書等事務処理も看護師が行っているため、医師事務補助だけでなく、看護事務補助としても事務担当職員が必要との意見もあった。「採血」、「注射薬の準備・混注」、「持参薬チェック」などは専門職への役割分担を求めている。各施設、他職種への役割分担に対する期待は大きいですが、急性期病院に介護福祉士の採用がなかったり、歯科衛生士や理学療法士が病棟配置されなかったり、臨床工学技士や検査技師、薬剤師等少ない人数の職種への委譲の難しさ、新たな役割拡大を他職種に行う場合の人材確保と育成等課題は多い。また、新たな人材活用が診療報酬に反映される要望は高い。

5. 手術室における役割分担

・「手術部屋準備」

看護師が、手術部屋の準備に関わる状況は、『5年前（平成22年度）』（88.5%）も『現在（平成26年7月）』（87.0%）もほぼ変わっていない。しかしながら、看護業務補助者（14.1%→21.1%）や臨床工学技士（2.5%→8.1%）にも役割分担が進んでいる状況がみられる。委託の割合も、微増（3.3%→8.4%）している。将来的には、看護業務補助者、臨床工学技士、委託への役割分担が一層望まれている。

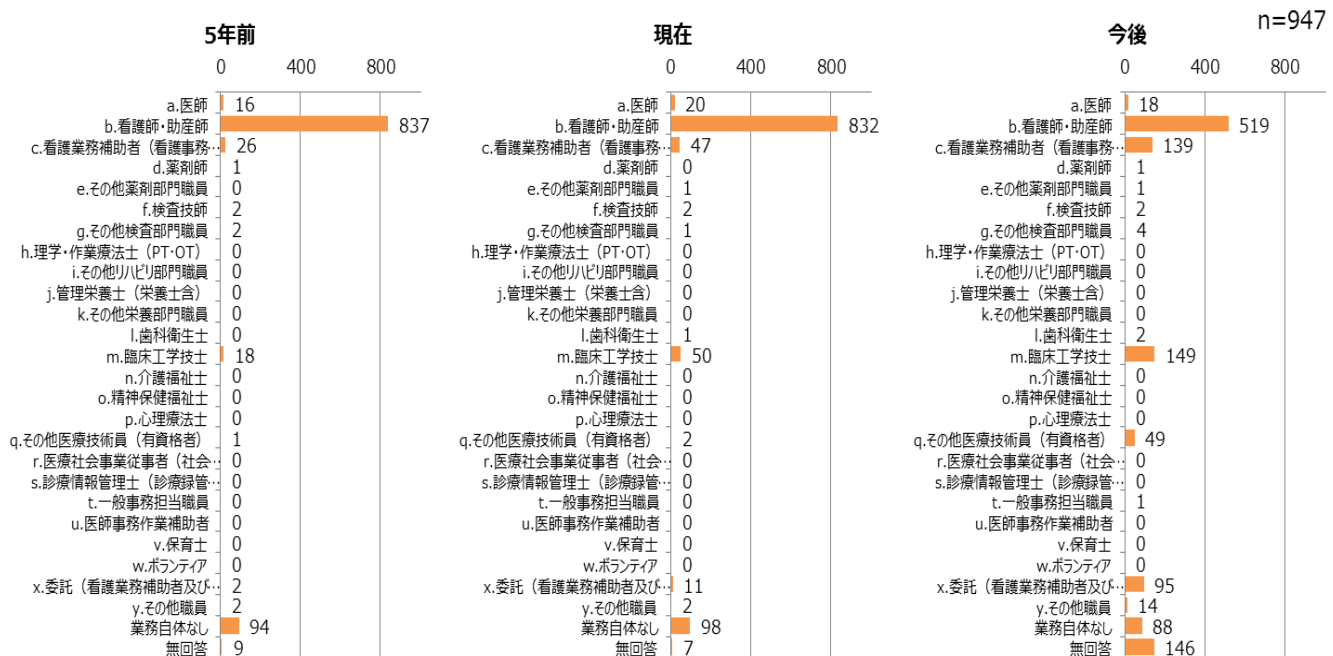
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	13	1.4%	13	1.4%	7	0.7%
b.看護師・助産師	838	88.5%	824	87.0%	418	44.1%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	134	14.1%	200	21.1%	346	36.5%
d.薬剤師	2	0.2%	2	0.2%	15	1.6%
e.その他薬剤部門職員	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
f.検査技師	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	5	0.5%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	24	2.5%	77	8.1%	163	17.2%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	0	0.0%	25	2.6%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	31	3.3%	80	8.4%	194	20.5%
y.その他職員	4	0.4%	8	0.8%	12	1.3%
業務自体なし	94	9.9%	98	10.3%	88	9.3%
無回答	9	1.0%	7	0.7%	122	12.9%



・「手術器械展開」

看護師が、手術機器の展開に関わる状況は、『5年前（平成22年度）』（88.4%）も『現在（平成26年7月）』（87.9%）もほぼ変わっていない。しかしながら、臨床工学技士との役割分担は1.9%→5.3%と進んできている状況があり、将来的には、より一層の分担（15.7%）が望まれている。

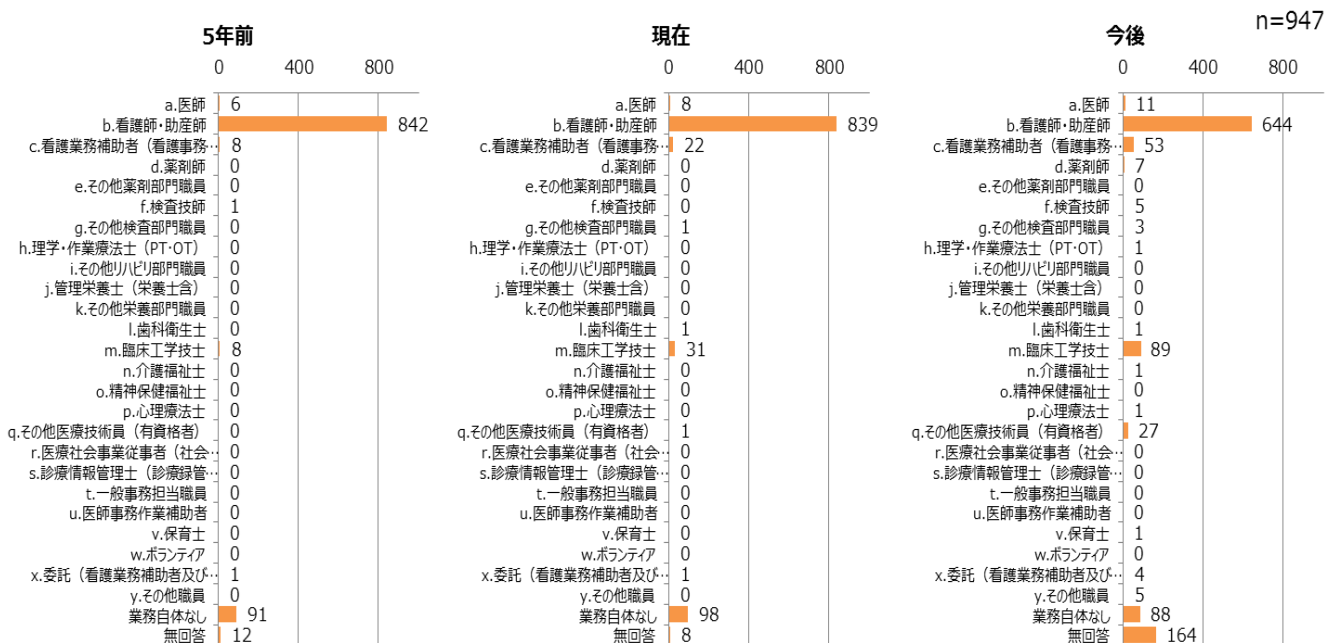
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	16	1.7%	20	2.1%	18	1.9%
b.看護師・助産師	837	88.4%	832	87.9%	519	54.8%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	26	2.7%	47	5.0%	139	14.7%
d.薬剤師	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
f.検査技師	2	0.2%	2	0.2%	2	0.2%
g.その他検査部門職員	2	0.2%	1	0.1%	4	0.4%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	1	0.1%	2	0.2%
m.臨床工学技士	18	1.9%	50	5.3%	149	15.7%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	1	0.1%	2	0.2%	49	5.2%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	2	0.2%	11	1.2%	95	10.0%
y.その他職員	2	0.2%	2	0.2%	14	1.5%
業務自体なし	94	9.9%	98	10.3%	88	9.3%
無回答	9	1.0%	7	0.7%	146	15.4%



・「外廻り（間接介助）」

看護師が、外廻り（間接介助）を実施している状況は、『5年前（平成22年度）』（88.9%）も『現在（平成26年7月）』（88.6%）も変わっていない。しかしながら、臨床工学技士との役割分担は0.8%→3.3%と微増がみられており、将来的には、より一層の分担（9.4%）が望まれている。

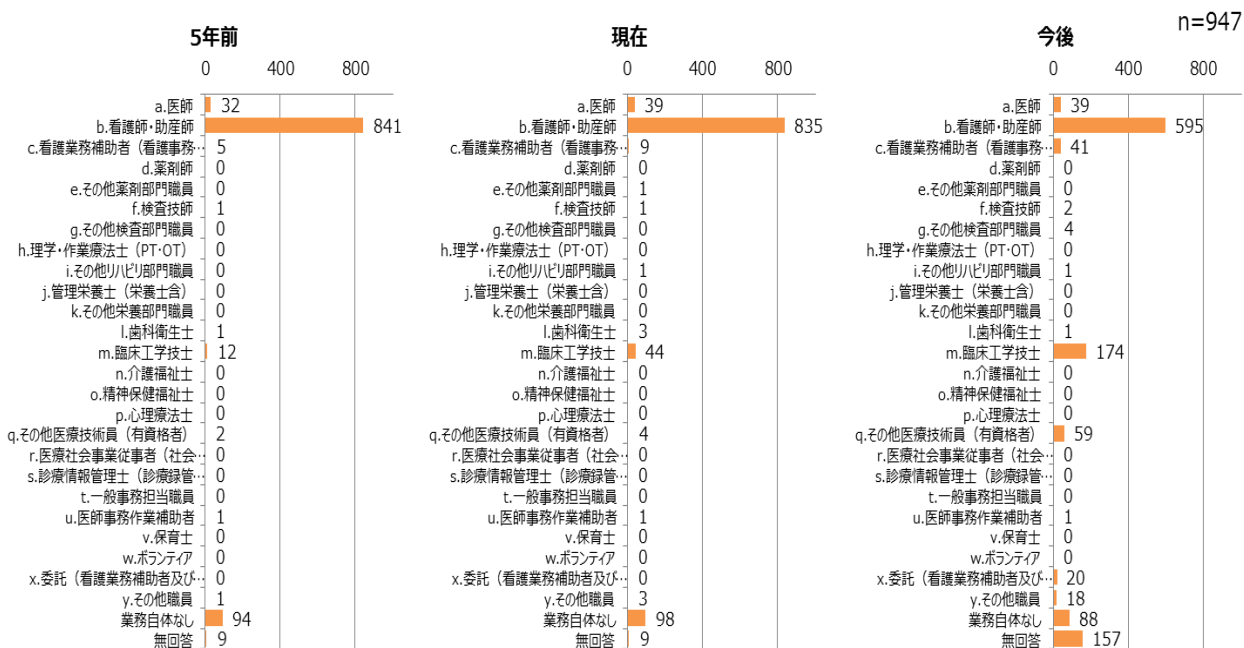
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	6	0.6%	8	0.8%	11	1.2%
b.看護師・助産師	842	88.9%	839	88.6%	644	68.0%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	8	0.8%	22	2.3%	53	5.6%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	7	0.7%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	1	0.1%	0	0.0%	5	0.5%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	1	0.1%	3	0.3%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
m.臨床工学技士	8	0.8%	31	3.3%	89	9.4%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	1	0.1%	27	2.9%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	1	0.1%	1	0.1%	4	0.4%
y.その他職員	0	0.0%	0	0.0%	5	0.5%
業務自体なし	91	9.6%	98	10.3%	88	9.3%
無回答	12	1.3%	8	0.8%	164	17.3%



・「器械出し（直接介助）」

看護師が、器械だしに関わる状況は、『5年前（平成22年度）』（88.8%）も『現在（平成26年7月）』（88.2%）もほぼ変わっていない。しかしながら、臨床工学技士との役割分担は1.3%→4.6%と進んできている状況があり、将来的には、より一層の分担（18.4%）が望まれている。

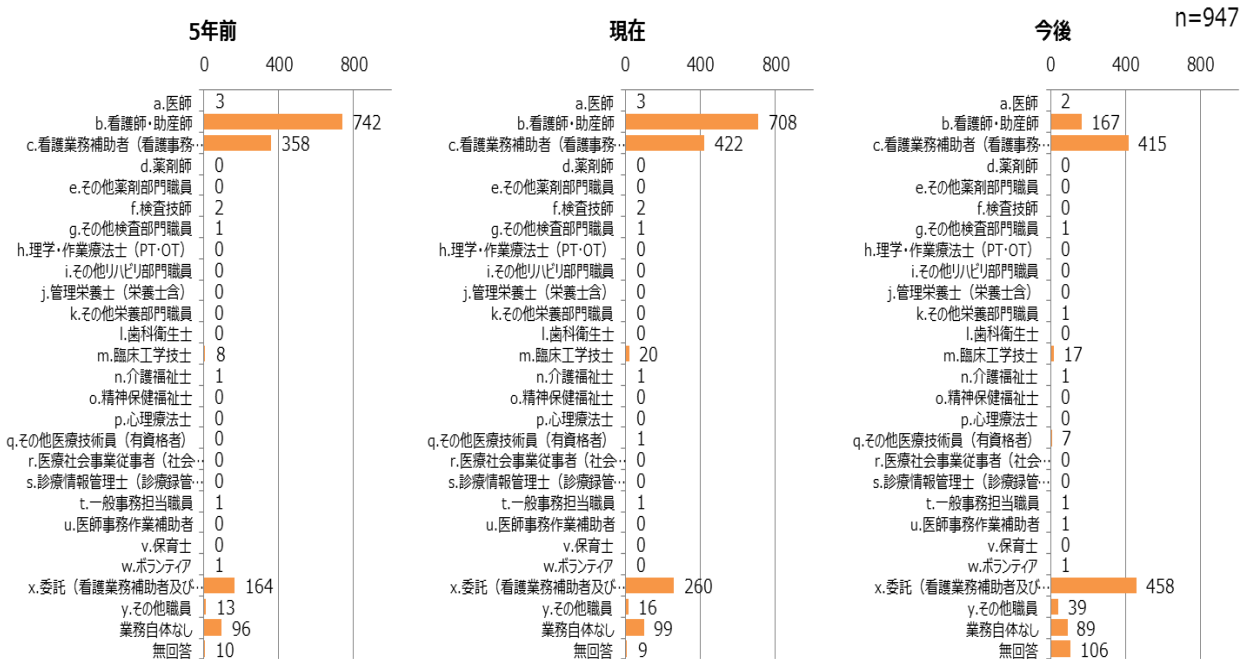
	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	32	3.4%	39	4.1%	39	4.1%
b.看護師・助産師	841	88.8%	835	88.2%	595	62.8%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	5	0.5%	9	1.0%	41	4.3%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%
f.検査技師	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
g.その他検査部門職員	0	0.0%	0	0.0%	4	0.4%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	1	0.1%	1	0.1%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
l.歯科衛生士	1	0.1%	3	0.3%	1	0.1%
m.臨床工学技士	12	1.3%	44	4.6%	174	18.4%
n.介護福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	2	0.2%	4	0.4%	59	6.2%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
u.医師事務作業補助者	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	0	0.0%	0	0.0%	20	2.1%
y.その他職員	1	0.1%	3	0.3%	18	1.9%
業務自体なし	94	9.9%	98	10.3%	88	9.3%
無回答	9	1.0%	9	1.0%	157	16.6%



・「術後清掃」

看護師が、術後清掃に関わる状況は『現在（平成 26 年 7 月）』74.8%で、『5 年前（平成 22 年度）』（78.4%）に比べて減ってきている。看護業務補助者や（37.8%→44.6%）への役割分担が進んだ結果だと言えよう。将来的には委託業者への役割分担が望まれている。

	5年前		現在		今後	
	病院数	割合	病院数	割合	病院数	割合
a.医師	3	0.3%	3	0.3%	2	0.2%
b.看護師・助産師	742	78.4%	708	74.8%	167	17.6%
c.看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	358	37.8%	422	44.6%	415	43.8%
d.薬剤師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
e.その他薬剤部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
f.検査技師	2	0.2%	2	0.2%	0	0.0%
g.その他検査部門職員	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
h.理学・作業療法士（PT・OT）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
i.その他リハビリ部門職員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j.管理栄養士（栄養士含）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
k.その他栄養部門職員	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
l.歯科衛生士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
m.臨床工学技士	8	0.8%	20	2.1%	17	1.8%
n.介護福祉士	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
o.精神保健福祉士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
p.心理療法士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
q.その他医療技術員（有資格者）	0	0.0%	1	0.1%	7	0.7%
r.医療社会事業従事者（社会福祉士等）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
s.診療情報管理士（診療録管理士）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
t.一般事務担当職員	1	0.1%	1	0.1%	1	0.1%
u.医師事務作業補助者	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
v.保育士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
w.ボランティア	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
x.委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）	164	17.3%	260	27.5%	458	48.4%
y.その他職員	13	1.4%	16	1.7%	39	4.1%
業務自体なし	96	10.1%	99	10.5%	89	9.4%
無回答	10	1.1%	9	1.0%	106	11.2%



＜総括＞

手術部屋の準備、手術機器の展開、外廻り（間接介助）、器械出しは、それぞれ『5 年前（平成 22 年度）』も『現在（平成 26 年 7 月）』も看護師が実施している率に大きな変化はない。ただし、手術部屋の準備や術後清掃など、直接患者に接しない業務に関しては、少しずつ看護業務補助者や委託への役割分担が進んできており、『今後』は一層の分担が望まれている。また、臨床工学技士との役割分担は、どの項目においても少しずつ始まっている状況が読み取れる。

【その他—自由記入欄より（一部抜粋）】

1. 主にチーム医療等看護業務の役割分担に関すること

- ・小規模病院では、臨床工学技士や社会福祉等の職はいないため、看護師が担当する部分が多く、理想とする役割分担は難しいのが現状。
- ・患者様の高齢化に伴い、持参薬チェックや内服薬管理に時間を要しており、看護業務の中では薬剤に関する業務が解決困難な事項。薬剤に関する業務を改善していくためには、薬剤師の協力が必須と考える。
- ・病院機能評価受診ごとに業務改善や役割分担の機能化が進んでいるが、まだまだ看護師以外の職種でも可能な業務を多く請け負っている。病棟においては、医師・看護事務補助者の常勤配置や病棟薬剤師の業務拡大、認知症患者の見守り人員など、強く希望している。手術室では、臨床工学士の術前器械準備、片付け、点検など専門性の高い医療器具には、是非介入を期待したい。全国で改善する取り組み規定ができればと願っている。
- ・透析室業務の後片付け・清掃・ごみ捨てに関しては委託も行っている。
- ・5年前と比較して看護補助者の人数が増え、看護業務を委譲することが多くなり、看護職の業務負担軽減になっているのは事実。一方で看護職に求められる事が多様化し、より専門性が期待されている。看護師不足が恒常的である中で多職種との連携により業務を役割分担することは望ましいと思うが人材確保と育成が今後の課題。
- ・器械展開や器械出し業務等、資格を必要としない業務は積極的に他職種を活用し、人員不足を補う必要あり。
- ・事務的な業務、検査・処置後の片づけ、入院オリエンテーション等 委譲したい他職種のマンパワーも考えなくてはならない。
- ・看護師でなくても行える業務を看護師が行っていることが多い。他職種との連携や協力は比較的できているが、医師やコメディカルの人員不足のため看護師に業務が移譲されている状況がある。
- ・他職種と役割分担するにあたり、①看護職でなければならない業務、②協力して実施する業務、③看護師でなくてよい業務がある。②は病状等により、さらに①②③に分けられるが、安全に業務遂行するためには看護師が看護師でなければならないか否かを判断し指示する力を身に付けなくてはならない。
- ・他の職員でできることは、委譲して看護職員でなければ出来ない業務に専念すべき。委譲するには話し合いとコミュニケーションが大切である。何度も話し合いをしたが委譲できない業務もある。
- ・内視鏡処置・治療介助は、専門の有資格者が養成されるなら任せられると考える。手術室内にある機器（電気メス、エコー、腹腔鏡など）は、臨床工学技士が点検・整備していく必要あり。器械展開や器械出しを他職種が手伝うことにより、看護師の術前訪問や術後訪問をさらに充実させることができると考える。
- ・当院は、障害者病棟 10:1、緩和ケアケア病棟 7:1 となっているが、書式の入力範囲外となるため、記載上 10:1 病院としている。殆どどの項目で、「今後担当してほしい職種」欄は記載していない。今後の病院の機能、また限られた人材から考えても、ほぼ現状の役割分担が妥当かと考える。ただし、緩和ケア病棟に於いては、入院患者の病状を医療安全の面からも判断し、「傍での見守りが必要」となった場合、その必要な時間にボランティアの協力システムが構築出来たらと考える。平成 25 年からは心理士も配置されているので、特に傾聴の面では協力・連携を始めている。
- ・今後、少子高齢多死社会を迎え、当然新しく看護師になる人も減少し平均年齢も上がる。多くの業務を抱えながら、高齢で認知症のある患者さんと 24 時間看護師だけで行おうとするには限界がある。補助者、他職種、ボランティアの協力が不可欠と考える。
- ・重症患者は全てにおいて看護師が必要だが、重症以外は看護補助者など多職種がケアをしてよいと思う。
- ・近年、医療機器の高度・複雑化で専門知識が必要と感じる場面が数多くある。手術室内に専任の臨床工学技士は不可欠で制度化してほしいし、手術前から終了まで関わりをもってほしい。看護業務で補える範疇は超えていると思う。他施設では直接介助も助手が行っているところもあり、

看護師だけが行える領域は明確にして欲しい。

- ・手術医療機器の高度化・複雑化が進んでいる中で、安全な手術のためにも臨床工学技士の手術室配置が必要。ICU内での緊急HDは、医師と看護師が実施しているが、看護師の負担が大きいため臨床工学技士の介入が必要。薬剤については、ジェネリック医薬品の普及に伴い、薬剤師との協同は必須。
- ・在宅物品の在庫管理及び払い出しに関わる業務が増加している。払い出し量・種類の判断と指導は医療者が行う業務であるが、それ以外については分担が可能である。血液浄化室については、クランク、看護補助者、臨床工学技士と、積極的に業務・役割分担を進めたいと考える。病棟における役割分担に関しては、今後業務を担当してほしい職種として、清潔ケアや排泄ケア等に看護業務補助者を入力しているが、あくまでも看護師の指示のもとに行うことが原則と考える。手術室における役割分担業務を担当してほしい職種では、夜間・救急時にも看護師以外の職種が対応できる体制を考慮する必要がある。
- ・高齢者や認知症患者が多くなってきている現在、ADL援助、薬の管理等一人の人への援助が多くなり時間を要している。看護師以外の職種でもできることは多々あり、うまくよりよく一人の人をケアしていけたらよいかと考える。無資格者でも指導によりできることはあるかと思う。薬、器械等は専門家が必須。
- ・高齢者の入院が増えるに伴って、医療と介護が混在しての看護ケアとなっている実態がある。急性期病院における介護福祉士は、ケア行為のパートナーとして重要な状況になってきているが、病院の中での位置づけ、業務内容が明確になっていない。医療行為が占める急性期病院のなかで、介護福祉士が単独で自己判断でケアできる内容には限りがあり、ケアのほとんどが看護師との協働や指示のもとであるため、介護福祉士の仕事に対するモチベーションに影響している。認知症患者のアセスメントやケアを積極的に実施する職種として確立されることが望ましい。また理学療法士は、リハビリの延長として高齢者の夜間の日常生活にリハビリを兼ねた支援、検査技師の採血などの権限委譲が確立されることが望まれる。
- ・検査・薬剤等専門分野については分業していきたい。
- ・今後の看護業務の役割分担を考えると、片づけ・清掃・廃棄物の処理やベッドメイキングは清掃委託職員に、清潔ケアや排せつケアは看護補助職員に担当させることが考えられる。
- ・当院では看護業務の中において他部門ができることは依頼していく。看護部門でしなくてはならない業務と、依頼できる業務を検討しながら徐々にではあるが、依頼項目が増になっている。①内視鏡介助、夜間対応、②混注作業はすべて薬剤師、③手術の間接介助を看護助手に、④採血業務は検査技師、⑤外来の検査説明は事務へなどの教育を行い、移行期間を明確にして協力を得ている。
- ・看護業務の見直しや整理が必要。後片付け・清掃業務は看護補助者に、機器の点検・片づけは臨床工学技士や看護助手に、ルチーンの入院説明や検査説明はクランクや事務員に、それぞれ役割分担できるように業務整理したい。
- ・看護補助者、医師事務作業補助者が本来実施すべき業務にその職種がない。または人員が少ない場合は看護師が担当する場合が多い。特に中小病院では、隙間業務と言われる雑多な業務も看護師が一手に引き受けている現状がある。看護師が行う事が出来る業務範囲は非常に広く、そのため他職種が本来実施すべき業務（採血、薬剤のミキシング、検査介助）も看護師が行う場合が多い。早急に整理すべきと思うが、看護師しかできない業務は何かを常に考えていかねばならない。某職能団体では、補助者との役割分担の中、身体ケアのかなりの部分を「補助者と協働」と示している。看護師が実施する排泄ケアと補助者が実施する排泄ケアが同じでいいはずはなく、看護師が常に認識していなければならない。
- ・チーム医療推進のもと、専門職の役割拡大が法的には進められているが、現実には人員不足を理由に役割拡大に二の足を踏んでいる職種は多い。これまでは、患者の一番身近にいる看護師が調整役を担い、専門職の間を埋めながらチーム医療を進めてきた。これからもそのスタイルに大きな変化はないと考えるが、医療の高度化に伴い新たなME機器やジェネリック薬品の導入など、医療現場は大きく変化している。毎日の看護場面でも専門的知識を持って臨まないと安全性が確保できない状況がある。ここ数年で病院内に働く職種は確実に増え、協働する機会も増えた。分業も以前よりは進んだが、まだ、患者と直接関わる部分については及び腰で看護師に期待する

職種がほとんどである。看護職はこれまで「患者のために」と、何でも引き受けてきたが、それだけで安全で安楽な環境が作れる時代ではない。それぞれの専門職が自ら進んで医療の現場に向き、現状を把握したうえで役割拡大に向け努力する必要がある。

- ・ 外来の検査説明：u. 医師事務作業補助者、病棟のベッドメイキング：w. ボランティア、病棟の認知症患者、不穏が見られる患者等の見守り：w. ボランティア 外来・病棟における採血：通常は臨床検査技師、重症者や困難事例は医師・看護師に役割分担したい。病棟における注射薬の準備・混注、持参薬チェック：主として薬剤師が行う方向にしたい。 外来の注射薬準備は取り上げられていなかったが、外来こそ看護職の注意の分散や作業中断が起き易い部署であるため、薬剤師への委譲を推進したい。
- ・ 外来部門における検査・薬剤の説明は専門職種が実施したほうが患者にとって安全・安心であると考え。
- ・ 患者の状態によって、明確に業務分担できないことも多いが、マニュアル通りで済む場合は、無資格者を含む他職種に業務移行できるものは多いと思う。また、薬剤師や臨床工学技士、臨床検査技師に業務移行した方が、より専門性が高まる業務も多くある。その上で、他職種連携のコーディネートや自立支援に向けたケア、患者、家族支援にその時間とエネルギーを振り分けられたら、より質の高いケアができると思われる。
- ・ 当院は、薬剤師が少なく、病棟薬剤師業務が少ない。また、検査技師による病棟採血がなくなり、いずれも看護師業務となり看護師の負担が増している。
- ・ 病棟の環境整備、シーツ交換は、看護助手（介護福祉士以外の無資格者）と障害者雇用の方に一部、役割分担できるようになった。持参薬チェックは薬剤部で実施するようになり、病棟ストック薬の点検も薬剤部が行っている。今後は病棟での混注など、薬剤部に分担してほしいと考える。

2. 主に制度面（特定行為等）に関すること

- ・ 急性期の治療を要する患者の中の認知症高齢者の割合が高く、年々負担が増している。看護師以外の職員を夜間もつけられるよう加算を設けていただきたい。
- ・ 「医療・介護制度改正」の一括法案成立後、医療従事者の業務範囲・実施体制の見直しが進められている。新たに薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師が、診療の補助として医師の指示を受けて行う業務には、今まで主として看護師が行っていた業務が多くある。看護師がチーム医療を推進し、その役割を拡大していくためには、他職種への業務委譲を進め、特定行為も含め安全で専門性の高い看護を提供できるように働きかけて行かなければならない。
- ・ 看護業務の役割分担は必要であるが、診療報酬上も考慮しないと進んでいかない。1. 外来における役割分担の検査説明は、医師事務作業補助者も5年前、現在と業務を行っている。
- ・ 看護師の業務は拡大された事と他職種へ移行した事があるが、いまだに財政面での負担は大きい。医師の負担については予算があるが、看護師の負担についての予算が少なく、実感として負担軽減を感じない。医師以外の職種に関しても大切にされている様と感じず、予算の使い方を考え、医師以外の職種に目を向けてほしい。
- ・ 看護業務の中で入院時の書類記入の業務が非常に多くなった。医師事務作業補助体制加算のように、看護事務作業補助体制が取れると良いと思う。また、注射薬、内服薬の取り扱いは全て薬剤師に委ねたいが、病院勤務を希望する薬剤師がいないことは、とても大きな問題である。
- ・ 薬剤師の業務担当を病棟だけではなく増やして欲しいが、薬剤師の就業人数上の問題で解決に至らないので業務分担に対する加算を診療報酬上で検討していただきたい。
- ・ 平成27年より施行されている医療介護総合確保推進法でのチーム医療推進の中で、診療放射線技師の造影剤の血管内投与の業務範囲の追加が挙げられている。ぜひとも実現していただきたい。
- ・ 厚生省の「チーム医療の推進について」の役割分担に基づき実施しているが、薬剤師や検査技師、臨床工学士等の限られたマンパワーを考えると、効率的で質の高い医療の提供という目的の達成は難しく、役割分担が進まない現状である。検査同意の説明は医師、時間や食事・薬等については看護師・補助者が行っており、事務職員に委譲したいが検査の説明だけでなく、身体状況を含め、総合的な判断が求められる場合もあるのが難しいところである。
- ・ 急性期病院においても高齢者の占める割合が年々増加している。病棟においては、認知症、せん

- 妄・不穏状態の患者の対応に多くの労力を費やし、その対応等するため研修にも多くの時間を費やしている。急性期治療の現場においては、確実な治療、安全優先のため抑制せざるを得ない現状でそれによる不穏状態の悪化や他の患者の看護に支障をきたすことがストレスとなり、看護師の疲弊が年々増している。急性期病院においても高齢者の外来受診時の移動介助はもとより、入院中の見守りや身の回りの世話を介護福祉士の活躍が期待される。看護補助者としてではなく、急性期病院における介護福祉士の配置等に診療報酬で認める等、環境整備をしていただきたい。
- ・ 看護師が関わる業務エリアは広く、もっと役割を分担し、多職種が病棟業務に関わることができるようになると考える。例えば急性期病院に介護福祉士や理学療法士が配置されることで、より機能性が高いケアの提供ができる。しかし、現状では例え採用されても、看護補助者としての採用となり、診療報酬に何ら影響しないことが残念である。
 - ・ 薬剤師の数が少なく、業務分担可能な業務も分担が進まない。PT/OT に分担してもらえる業務がある。双方とも診療報酬の加算の改善や新設がないと推進が厳しい。ボランティアも業務範囲を限定すれば、担ってもらえる業務があると思われる。手術室清掃の委託化が当院ではできていないが、看護としてはぜひ進めていきたい。
 - ・ 法改正に伴う看護業務の役割分担について、多職種との業務調整が難しい。人員の問題や業務拡大に伴う調整など、スムーズに進まない現状に苦労している。業務分担をしていくに当たり、看護の独自性を見失わないようにしたい。

3. その他（看護師不足や業務改善、教育等）に関すること

- ・ 5年前と比較して医師および看護職の負担軽減の取り組みが進んでいると思う。しかし医療の複雑化、専門化により看護業務が増しており、成果として実感できない。
- ・ 合併症を持ち、医療を必要とする認知症患者の安全な見守りは、教育訓練が必要。看護補助者の教育・訓練を強化したいと考えている。一病院でできることも限られており、プログラムの開発、院外研修の機会を増やしてほしい。
- ・ 患者への看護サービスの充実、及び質の向上のためには、患者サイドで共にサービスを提供する看護補助者の質と量の確保が急務である。併せて、看護師のアセスメント能力、リーダーシップ能力の向上が不可欠であり、看護師としてより専門性を発揮し、役割分担できるかどうかは看護師の認識に依るところが大きいと考えている。
- ・ 業務分担を進めるにあたり、安全面を考慮し、分担のマニュアルやルール、研修等の規程などが必要である。
- ・ 少子社会で看護師人口の増加は望めない。安全で安心できる看護の提供、看護に専念できる環境作り、看護の専門性を発揮するために、看護補助者や委託業者へどんどん委譲していきたい。そのためには教育が必要である。また、従来の概念にとらわれない、発想が管理者には求められる。また、臨床工学士との協働も可能である。「看護師は何をする人なのか！」を再認識し、チーム医療を提供することが重要である。
- ・ 看護業務量は他職種との役割分担が進み、かなり軽減した。今後は、看護師に患者さんのトータルのマネジメント能力を育成することが課題。他職種とのコミュニケーション能力を上げることを検討している。また、看護補助者の院内教育は継続教育が必要で今後は質も検討していく。
- ・ 看護業務が他の職種に委譲していくためには、手順の一本化やマニュアル化が進まないといえない。また、他職種に業務委譲を進める中で、看護がやるべき業務と考える根拠を明確にしていくことが重要であると考え。同じ業務でも患者様の状態によって看護師が行うべき場合とそうでない場合があることを、誰もが同じように認識するような教育も必要かと考える。
- ・ 外来業務においては看護師から医師事務作業補助者へ変更できることが多いと考えている。
- ・ 医療現場においては、無資格者の看護補助者より介護福祉士を使うことで効果が得られると考える。また、今後は臨床工学技士を手術室や内視鏡室で活用したいと考えている。いずれにしても院内の教育が必要である。

【参考資料・本調査票】

送信

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

※調査票の表示・入力には、Adobe Readerが必要で

【回答期限：平成27年6月20日（土）】

・添付PDFファイルの調査票は回答欄に直接ご入力頂ける仕組みとなっております。ご回答後、調査票の先頭ページ右上にある『送信』ボタンを押すことで、貴院の回答データが日本病院会調査サーバーに届きます。正常にデータ送信が完了されますと、「送信成功：アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございます。」のメッセージが画面表示されます。なお、同表示がされない場合には、お手数ではございますが、ご回答頂いた調査票をメール添付にて送信してください。
 （メールアドレス mochida@hospital.or.jp）
 ご回答いただいた病院名・数値や内容は、集計目的に利用し、個別に明らかになることは一切ございません。また、ご記入いただいた個人情報は、本調査に関連した利用目的に限り使用いたします。
 ・本調査票の設問項目にあらかじめ入力あるいはチェックされているデータは、「会員病院登録状況調」に基づき処理されたものです。内容をご確認の上、誤りがある場合にはデータの修正をお願いいたします。

I. 施設概要（平成27年6月1日現在）

事務部門管理者の方にお聞きます。

- ※1 調査票は全部で6頁あります。
- ※2 「入力要領」は、下記URLに掲載しておりますのでご参照ください。< <https://goo.gl/V6rDjt> >
- ※3 I. は、「事務部門管理者」の方、II. は、「看護部長もしくは看護師長」の方がご回答ください。

注）「入力ご担当者（回答者）」、「Eメールアドレス」の欄は、日本病院会事務局からの照会にお答えいただけるご担当者様となります。「電話番号」、「FAX番号」は、内容をご確認の上、ご担当者様の所属先直通番号を希望される場合は、修正をお願いいたします。

病院名			
ご住所	郵便番号	都道府県	
電話番号	FAX番号		
入力ご担当者	ご所属	お役職	
ご氏名			
Eメールアドレス			

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

1. 許可病床数

合計	一般	療養	精神	結核	感染
0					

2. 開設主体

国 厚労省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他

公的医療機関 都道府県、市町村、地方独立行政法人、日赤、済生会、北海道社会事業協会厚生連

社会保険関係団体等 健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

医療法人 特定医療法人、社会医療法人、その他医療法人

個人 個人

その他 公益法人、私立学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

3. 算定している「一般病棟」入院基本料区分

7対1 10対1 13対1 15対1 その他（特別入院基本料等） 算定していない

・急性期看護補助体制加算算定の有無

25対1（5割以上） 25対1（5割未満） 50対1 75対1 算定していない

・夜間急性期看護補助体制加算算定の有無

夜間25対1 夜間50対1 夜間100対1 算定していない

・看護職員夜間配置加算算定の有無

算定している 算定していない

4. 算定している「療養病棟」入院基本料区分

療養病棟入院基本料1（20対1） 療養病棟入院基本料2（25対1） その他

算定していない

5. 院内システムの導入状況

・電子カルテシステム

稼働中 開発中 計画中 予定なし

・オーダリングシステム

稼働中 開発中 計画中 予定なし

6. 医師事務作業補助体制加算

15対1 20対1 25対1 30対1 40対1 50対1

75対1 100対1 算定していない

7. 看護部門職員数

非常勤職員は、常勤換算（小数第1位まで）してください。なお、非常勤職員の常勤換算の計算方法は下記の枠内を参照してください。（休職中の職員は含みません。）

	看護師	准看護師	助産師	看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	合計
常勤					0
非常勤（常勤換算）					0.0
合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【非常勤職員の常勤換算の計算方法】

貴院の1週間の通常勤務時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第1位まで入力してください。

例：1週間の通常勤務時間が40時間の病院で、週4日（各日5時間）勤務の看護職員が1人いる場合
 非常勤看護職員数 = 4日×5時間×1人 / 40時間 = 0.5人

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

II. 看護業務の役割分担について

看護部長もしくは看護師長の方にお聞きます。

貴院が行う各業務の役割分担について、5年前（平成22年度）業務を行っていた職種、現在（平成27年6月）業務を行う職種、

今後、業務を担当してほしい職種をそれぞれお聞かせください。

 （本調査URL < <https://goo.gl/V6rDjt> > に掲載した「入力要領 P7」をご参照の上、ご回答ください。）

該当する下記職種の選択記号をプルダウンメニューから選択してください。（複数回答可） ※ 1業務内容ごとに5年前・現在・今後と、それぞれ3職種まで入力できます。

【選択肢】

a. 医師	h. 理学・作業療法士（PT・OT）	n. 介護福祉士	t. 一般事務担当職員
b. 看護師・助産師	i. その他リハビリ部門職員	o. 精神保健福祉士	u. 医師事務作業補助者
c. 看護業務補助者（看護事務補助者・介護職員含）	j. 管理栄養士（栄養士含）	p. 心理療法士	v. 保育士
d. 薬剤師	k. その他栄養部門職員	q. その他医療技術員（有資格者）	w. ボランティア
e. その他薬剤部門職員	l. 歯科衛生士	r. 医療社会事業従事者（社会福祉士等）	x. 委託（看護業務補助者及び医師事務作業補助者は除く）
f. 検査技師	m. 臨床工学技士	s. 診療情報管理士（診療録管理士）	y. その他職員
g. その他検査部門職員			

 1. 外来における役割分担 注）外来化学療法室は除く

業務内容	5年前（平成22年度）	業務自体なし	現在（平成27年6月）	業務自体なし	今後、業務を担当してほしい職種	業務自体なし
病状・手術・検査説明の同席		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
採血		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
検査説明		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
片付け・清掃・廃棄物の処理		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

2. 内視鏡室における役割分担

業務内容	5年前（平成22年度）	業務自体なし	現在（平成27年6月）	業務自体なし	今後、業務を担当してほしい職種	業務自体なし
光源・スコープ準備、点検		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
内視鏡処置・治療介助		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
スコープ洗浄		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

3. 透析室における役割分担

業務内容	5年前（平成22年度）	業務自体なし	現在（平成27年6月）	業務自体なし	今後、業務を担当してほしい職種	業務自体なし
穿刺・回収		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
機器点検・管理		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
後片付け・清掃・ゴミ捨て		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

4. 病棟における役割分担

業務内容	5年前（平成22年度）	業務自体なし	現在（平成27年6月）	業務自体なし	今後、業務を担当してほしい職種	業務自体なし
環境整備（病室）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
ベッドメイキング		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
清潔ケア（清拭、洗髪、入浴介助、口腔ケア等）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
排泄ケア（トイレ誘導、おむつ交換を含む）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
入院時の対応（オリエンテーション）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
診療機器・器具の点検、管理		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
採血		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
注射薬の準備・混注		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
持参薬チェック		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
認知症患者、不穏が見られる患者等の見守り		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

アンケート調査「平成27年度看護業務の役割分担に関する実態調査」

調査期間：2015/6/2～2015/6/20

5. 手術室における役割分担

業務内容	5年前（平成22年度）	業務自体なし	現在（平成27年6月）	業務自体なし	今後、業務を担当してほしい職種	業務自体なし
手術部屋準備		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
手術器械展開		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
外廻り（間接介助）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
器械出し（直接介助）		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
術後清掃		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

6. 自由記入欄

看護業務の役割分担について、お気付きの点がございましたら、200字以内でご記入ください。

以上で質問はすべて終わりです。ご協力ありがとうございました。

※ すべての調査項目にご回答後、調査票の先頭ページ右上にある『送信』ボタンを押してください。

【担当委員会】**一般社団法人日本病院会 看護職場環境委員会**

会 長	堺 常雄	聖隷浜松病院 総長
担当副会長	末永 裕之	小牧市民病院 病院事業管理者・病院長
委員長	望月 泉	岩手県立中央病院 病院長
副委員長	勝原 裕美子	聖隷浜松病院 副病院長・総看護部長
委 員	児島 由利江	福島県立医科大学会津医療センター附属病院 副病院長・看護部長
委 員	高橋 啓子	三友堂病院 看護部長
委 員	中山 伊都子	岡山旭東病院 看護部長
委 員	林 順子	小牧市民病院 看護局長